

2026年3月6日（金）

# マーケット研修資料

（2026年3月）

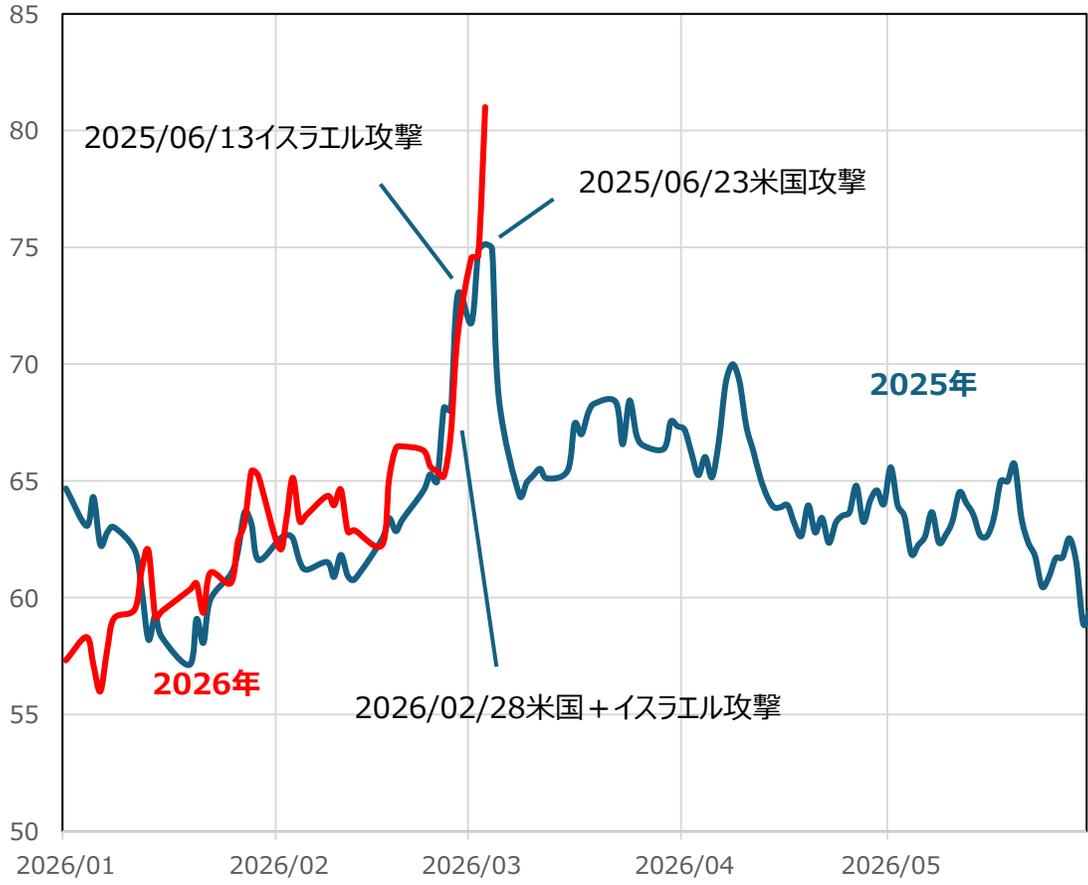
---

マーケットエッジ株式会社 代表取締役  
小菅 努

# イラン情勢

(ドル/バレル)

WTI原油先物相場 (2025年との比較)



(出所) LSEGよりマーケットエッジ作成

## 双方の激しい攻撃が続いている

- イランや親イラン組織が攻撃をした地点
- 米国やイスラエルが攻撃をした地点

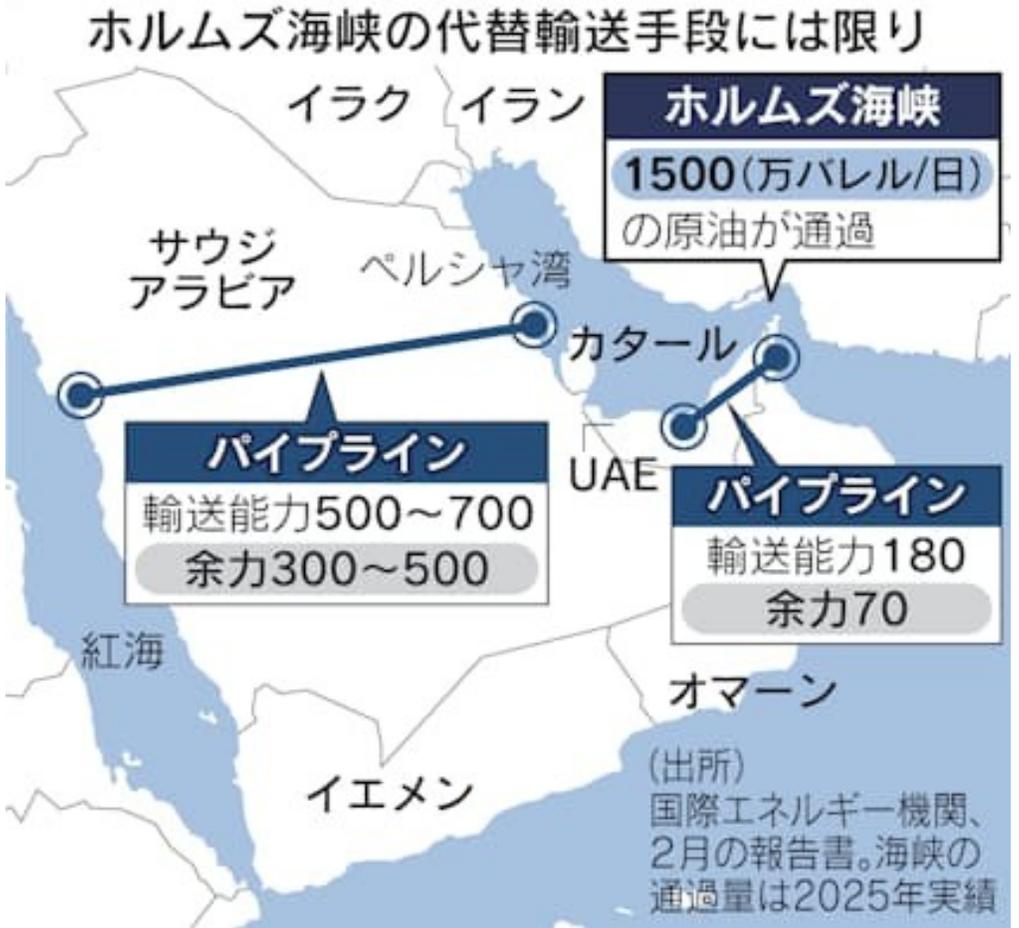
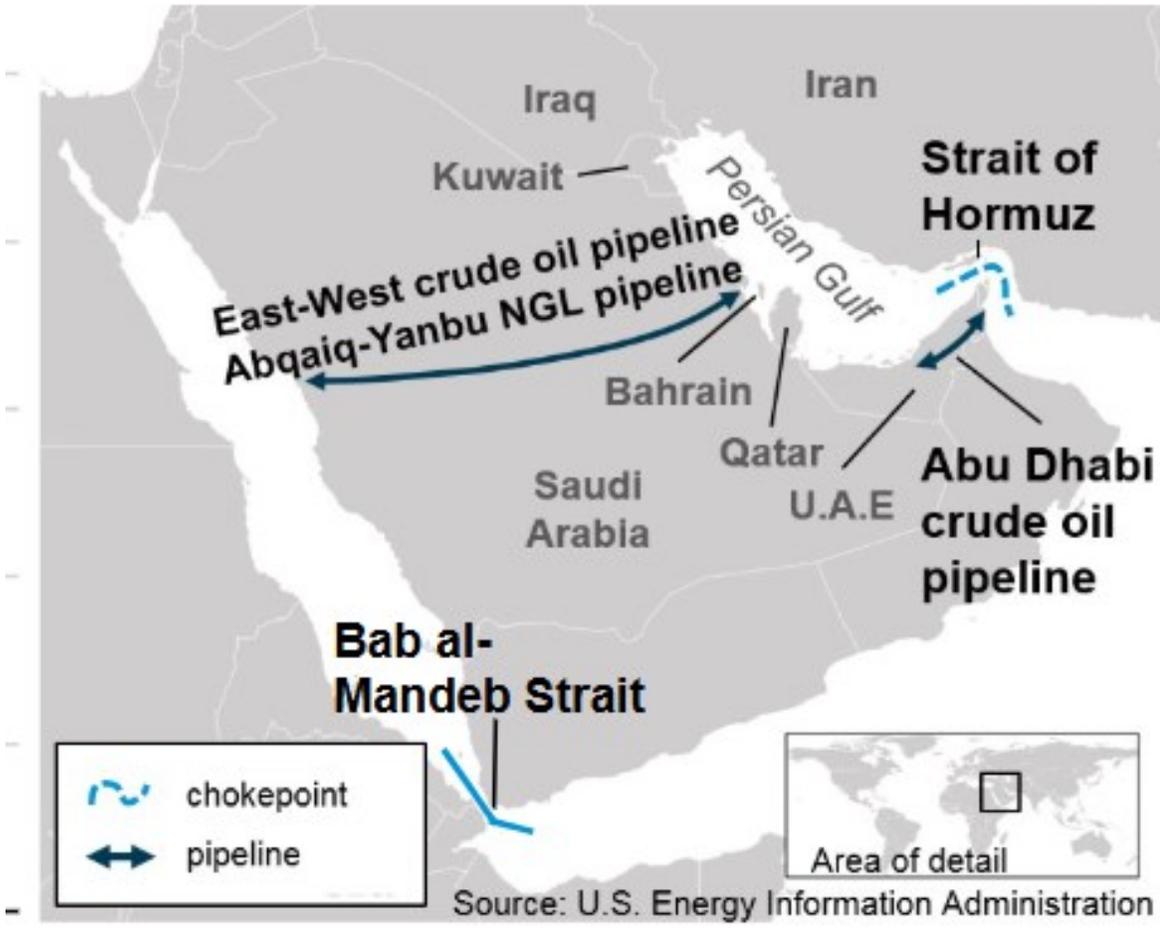


(注) 2月28日から3月2日まで (出所) 米戦争研究所

# イラン情勢



# イラン情勢



# イラン情勢

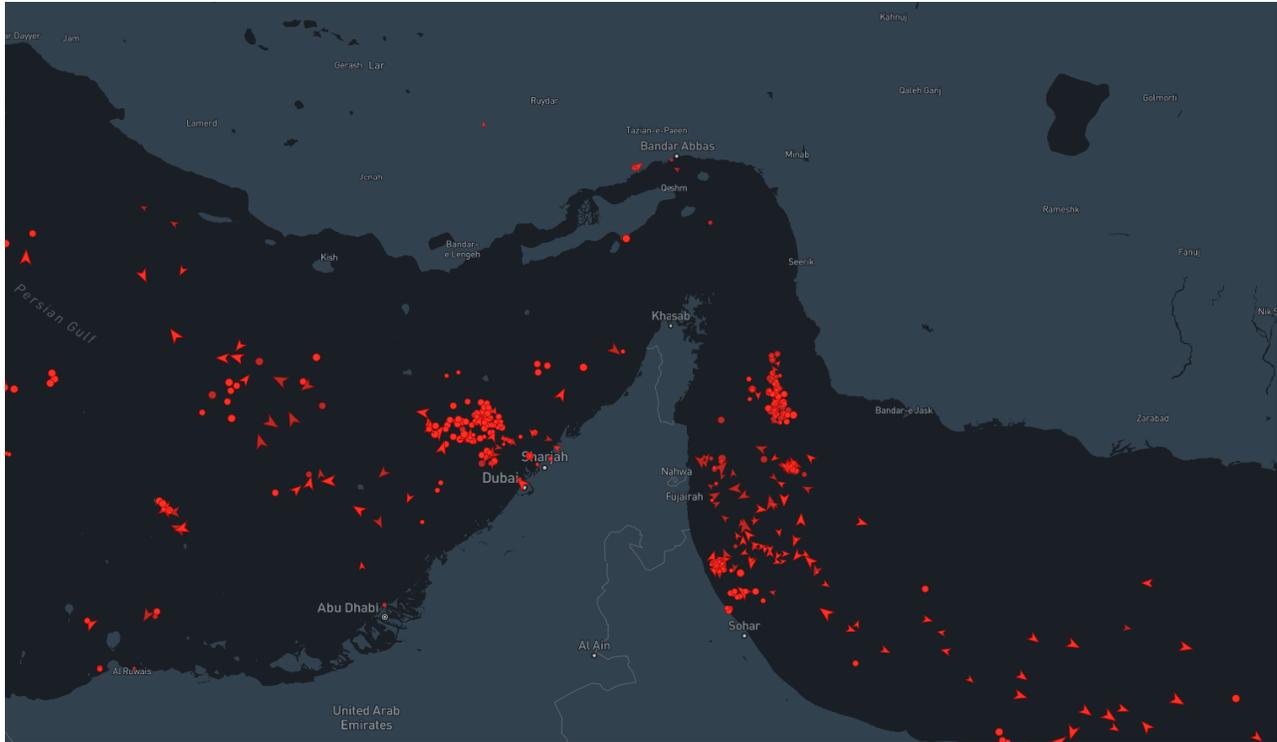
## 石油備蓄の現況

令和8年2月  
資源エネルギー庁  
燃料供給基盤整備課

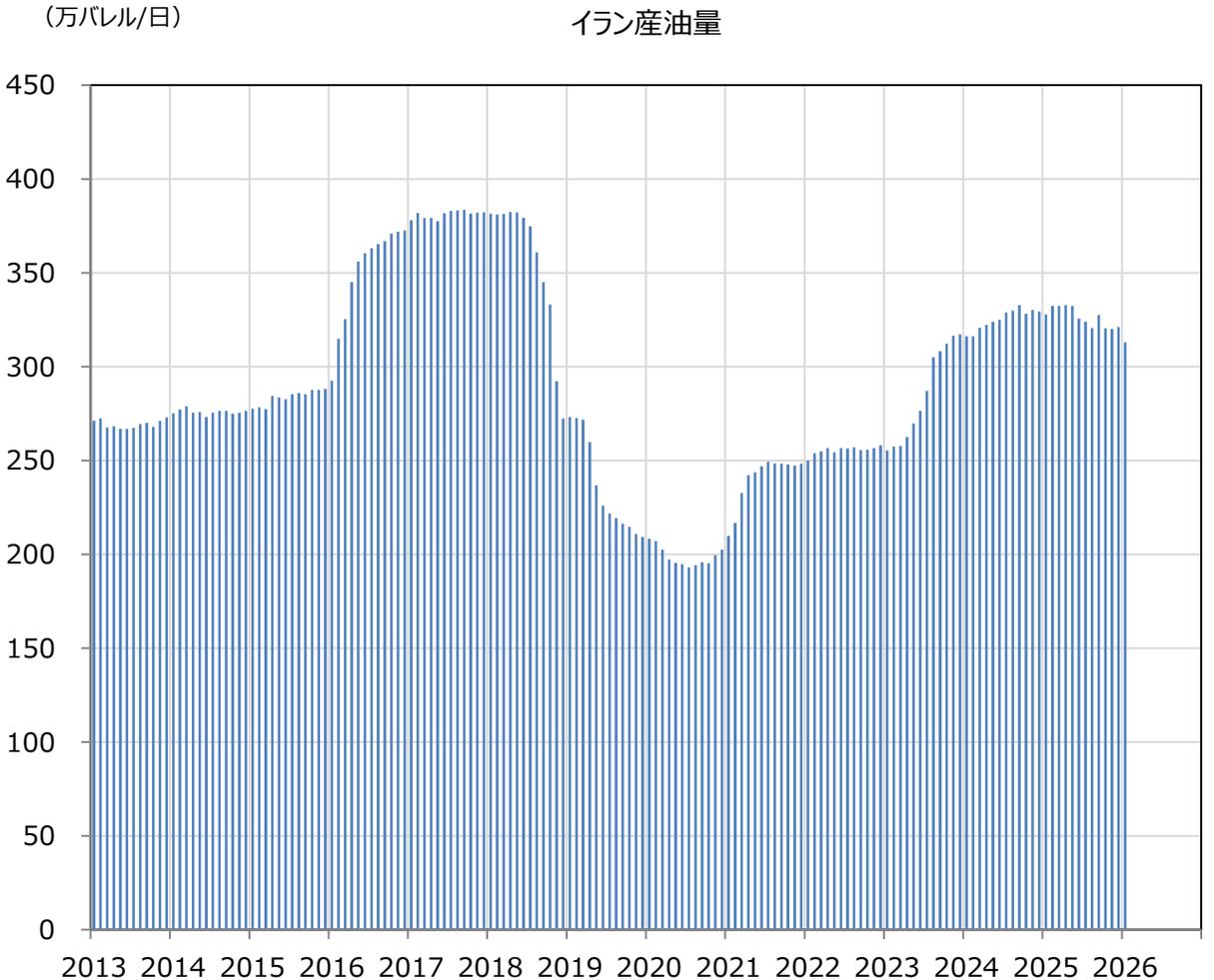
- 我が国の石油備蓄は、国家備蓄、民間備蓄、産油国共同備蓄、の3つの方法により実施しています。
- 令和7年12月末現在の我が国の石油備蓄は、以下の通りです。

	【備蓄日数】	【製品換算】	【保有量】
<u>国家備蓄</u>	<u>146日分</u>	4,112万k l (≒2.6億バレル)	原油 4,179万k l (≒2.6億バレル)
	<u>123日分&lt;IEA基準&gt;</u>		製品 143万k l (≒0.09億バレル)
<u>民間備蓄</u>	<u>101日分</u>	2,848万k l (≒1.8億バレル)	原油 1,372万k l (≒0.9億バレル)
	<u>85日分&lt;IEA基準&gt;</u>		製品 1,545万k l (≒1.0億バレル)
<u>産油国共同備蓄</u>	<u>7日分</u>	196万k l (≒0.12億バレル)	原油 207万k l (≒0.13億バレル)
	<u>6日分&lt;IEA基準&gt;</u>		
<u>合計</u>	<u>254日分</u>	7,157万k l (≒4.5億バレル)	合計 7,445万k l (≒4.7億バレル)
	<u>214日分&lt;IEA基準&gt;</u>		

(注) 1. 四捨五入のため内数と計は一致しないこともある。  
2. 【備蓄日数】は石油備蓄法に基づき、国内の石油消費量をもとに計算したもの。また、当該【備蓄日数】とともにIEA基準で試算した備蓄日数(石油ガスを含む。)を併記している。なお、当該日数については、計算に使用する値が異なるため、IEA公表の数字と必ずしも一致しない。



# イラン情勢



(出所) OPECよりマーケットエッジ作成

## 米国家安全保障戦略（中東、要約）

中東は依然重要だが、米外交の最優先地域ではなくなった。かつて重視された理由は、エネルギー供給、超大国間競争、地域紛争の波及リスクだった。現在はエネルギー供給源の多様化と米国の純輸出国化で、その戦略的重要性は相対的に低下した。

地域の最大の不安定要因であるイランは、イスラエルの軍事行動や2025年6月の米軍作戦で弱体化した。

今後の中東は、石油・ガスだけでなく、原子力、AI、防衛技術などの投資・協力先になる。

米国は中東諸国、とくに湾岸君主国に政治体制や価値観の変革を押し付けるべきではない。各国の体制や伝統を受け入れたうえで、共通利益に基づく関係を築くべきだ。

それでも米国の核心的利益は残っており、湾岸エネルギー供給の確保、ホルムズ海峡と紅海の航行の自由、テロ封じ込め、イスラエルの安全保障を重視している。アブラハム合意を中東やイスラム圏の他国にも広げるべきだ。

中東は「危機の震源地」から「協力・投資・正常化の地域」へ変わりつつあり、米国は其中で自国の利益をより優先できるようになる。



# イラン情勢

## Metals Focus (金市場分析)

地政学的な緊張やショックによって金が享受する傾向にある上昇は、ほとんど長続きしない。ただし、今回の紛争の特性上、状況が異なる可能性がある。

紛争がホルムズ海峡の船舶輸送に影響を与え、世界のエネルギー市場へのリスクが高まっていること、また12カ国が紛争に巻き込まれているという事実から、戦争がさらに拡大する現実的なリスクが生じている。

中東で再び紛争が長期化することを支持する声はほとんどない。

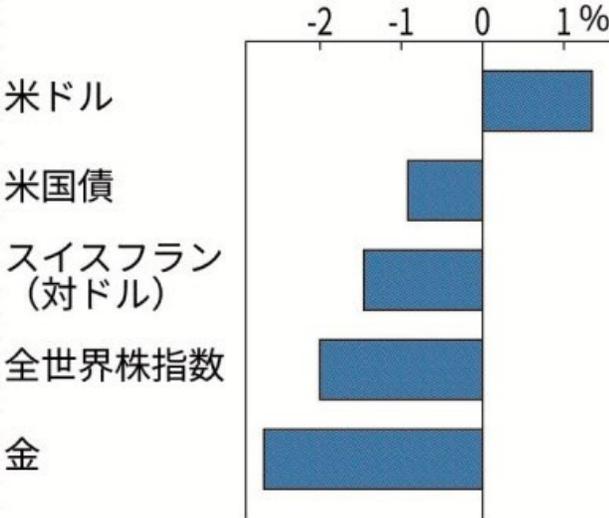
米国中間選挙の目前に迫るこの時期に、イランで長期化、あるいは制御不能な戦争が勃発すれば、共和党にとって政治的リスクとなる。有権者は、この戦争に伴う避けられない金銭的・人的損失、そして上昇し続ける原油価格がインフレ（実体および体感）に及ぼす影響を、おそらく理解しないだろう。

金価格が1月の史上最高値を再び試すと予想されるが、金には持続的な上昇に十分な勢いが無いだろう。紛争が拡大している兆候や石油市場が著しく混乱している兆候があれば、金価格は容易に1オンスあたり6000ドルまで上昇する可能性がある。

米国の外交政策に永続的な影響を及ぼす。ベネズエラへの最近の介入と相まって、これは戦略目標を達成するために、必要であればハードパワーを用いて、体制や政治の変革を誘発しようとする姿勢を示している。一方、同盟国の大半との調整や協議の欠如は、単独行動主義への転換を示唆している。全体として、世界最大の経済大国であり、かつ有力な軍事力を有する国におけるこうした変化は、地政学的な不確実性を増幅させる。

今回の軍事行動が米国債に対して金価格を押し上げる可能性がある。今週見られた国債への資金流入の限定的な増加は、国債の伝統的な安全資産としての役割に対する既存の懸念をさらに強めるものだ。これは金にとって明らかにプラスだ。安全資産としての投資フローをめぐって国債と競合するという直接的な側面だけでなく、こうした懸念が米ドルに及ぼす影響という間接的な側面もある。

**金が下落し米ドルは独歩高**  
(2月末比の騰落率)



(注) 米ドルは日経通貨インデックス、米国債は残存1年以上の米国債に投資するETF。4日時点

# Precious Metals

# COMEX金先物相場 (日足)

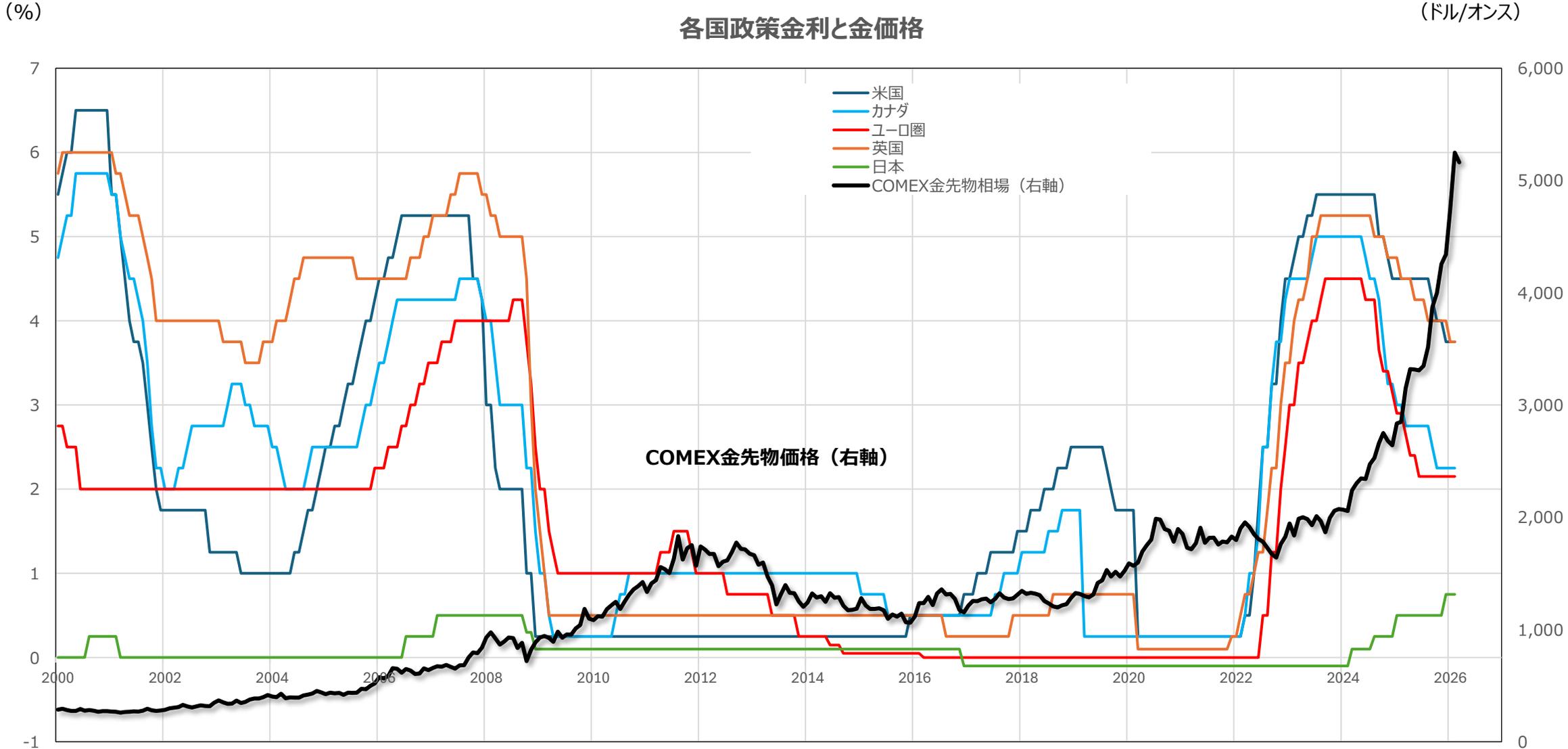


# COMEX銀先物相場 (日足)





# 金融政策との関係性①



(出所) LSEGよりマーケットエッジ作成

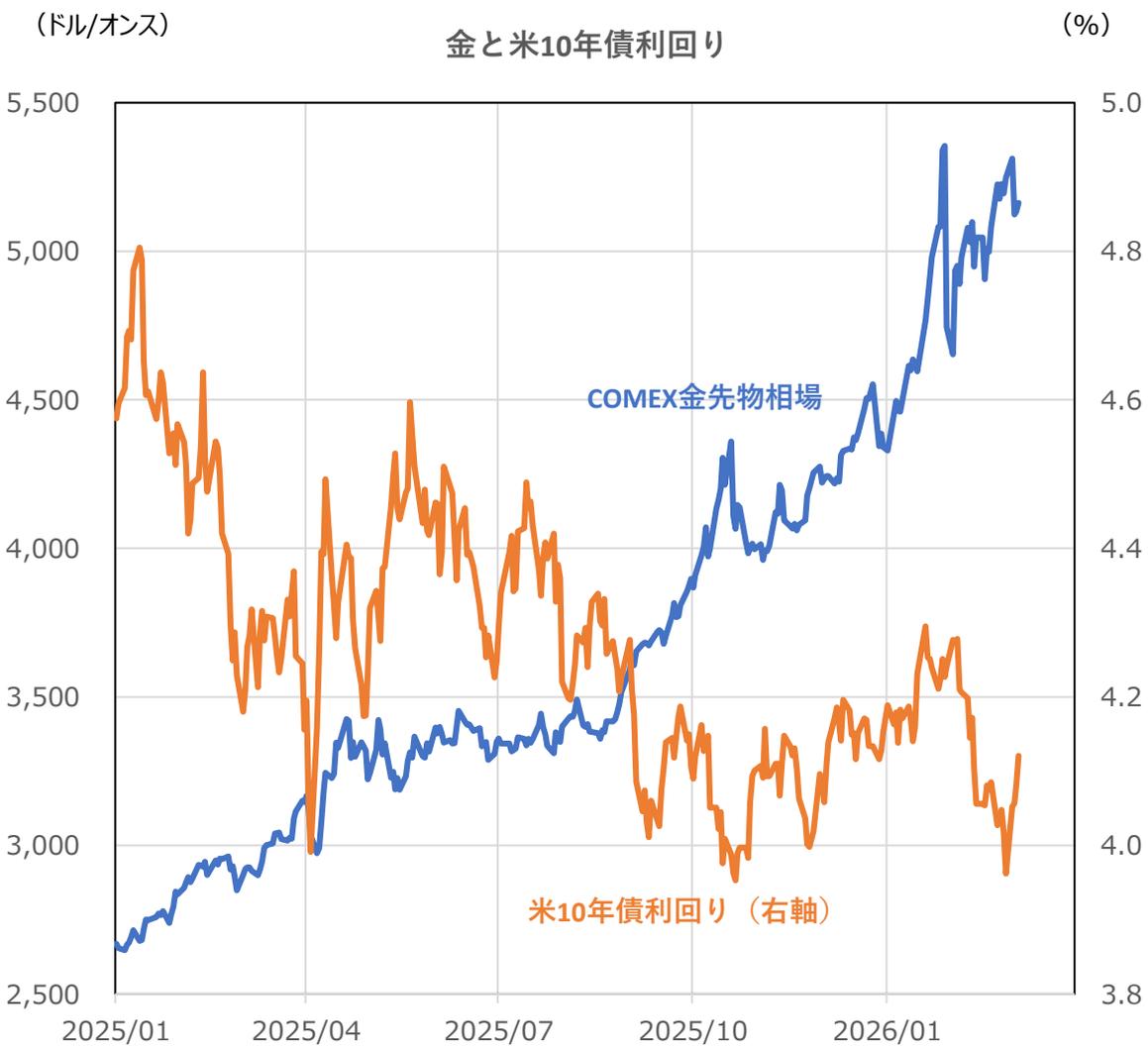
## 金融政策との関係性②

Percent

Variable	Median <sup>1</sup>				
	2025	2026	2027	2028	Longer run
Change in real GDP	1.7	2.3	2.0	1.9	1.8
September projection	1.6	1.8	1.9	1.8	1.8
Unemployment rate	4.5	4.4	4.2	4.2	4.2
September projection	4.5	4.4	4.3	4.2	4.2
PCE inflation	2.9	2.4	2.1	2.0	2.0
September projection	3.0	2.6	2.1	2.0	2.0
Core PCE inflation <sup>4</sup>	3.0	2.5	2.1	2.0	
September projection	3.1	2.6	2.1	2.0	
Memo: Projected appropriate policy path					
Federal funds rate	3.6	3.4	3.1	3.1	3.0
September projection	3.6	3.4	3.1	3.1	3.0

MEETING DATE	CME FEDWATCH TOOL - CONDITIONAL MEETING PROBABILITIES							
	175-200	200-225	225-250	250-275	275-300	300-325	325-350	350-375
2026/03/18			0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.7%	97.3%
2026/04/29	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%	10.5%	89.2%
2026/06/17	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	2.7%	29.8%	67.4%
2026/07/29	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%	9.4%	39.0%	50.9%
2026/09/16	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%	4.2%	21.4%	43.8%	30.2%
2026/10/28	0.0%	0.0%	0.1%	1.3%	8.4%	28.9%	40.5%	22.8%
2026/12/09	0.0%	0.0%	0.5%	3.9%	15.3%	31.9%	34.0%	14.4%
2027/01/27	0.0%	0.1%	0.8%	4.7%	16.4%	32.1%	32.6%	13.4%
2027/03/17	0.0%	0.2%	1.4%	6.7%	19.0%	32.2%	29.4%	11.1%
2027/04/28	0.0%	0.2%	1.6%	7.2%	19.6%	32.0%	28.6%	10.7%
2027/06/09	0.0%	0.4%	2.3%	8.8%	21.2%	31.6%	26.3%	9.3%
2027/07/28	0.1%	0.5%	2.6%	9.2%	21.5%	31.4%	25.8%	9.0%
2027/09/15	0.1%	0.6%	2.9%	9.9%	22.1%	31.1%	24.8%	8.5%
2027/10/27	0.2%	1.0%	4.1%	11.9%	23.6%	30.1%	22.2%	7.1%
2027/12/08	0.3%	1.6%	5.7%	14.4%	25.0%	28.4%	18.9%	5.6%

# 米金利/ドルとの関係性



(出所) LSEGよりマーケットエッジ作成

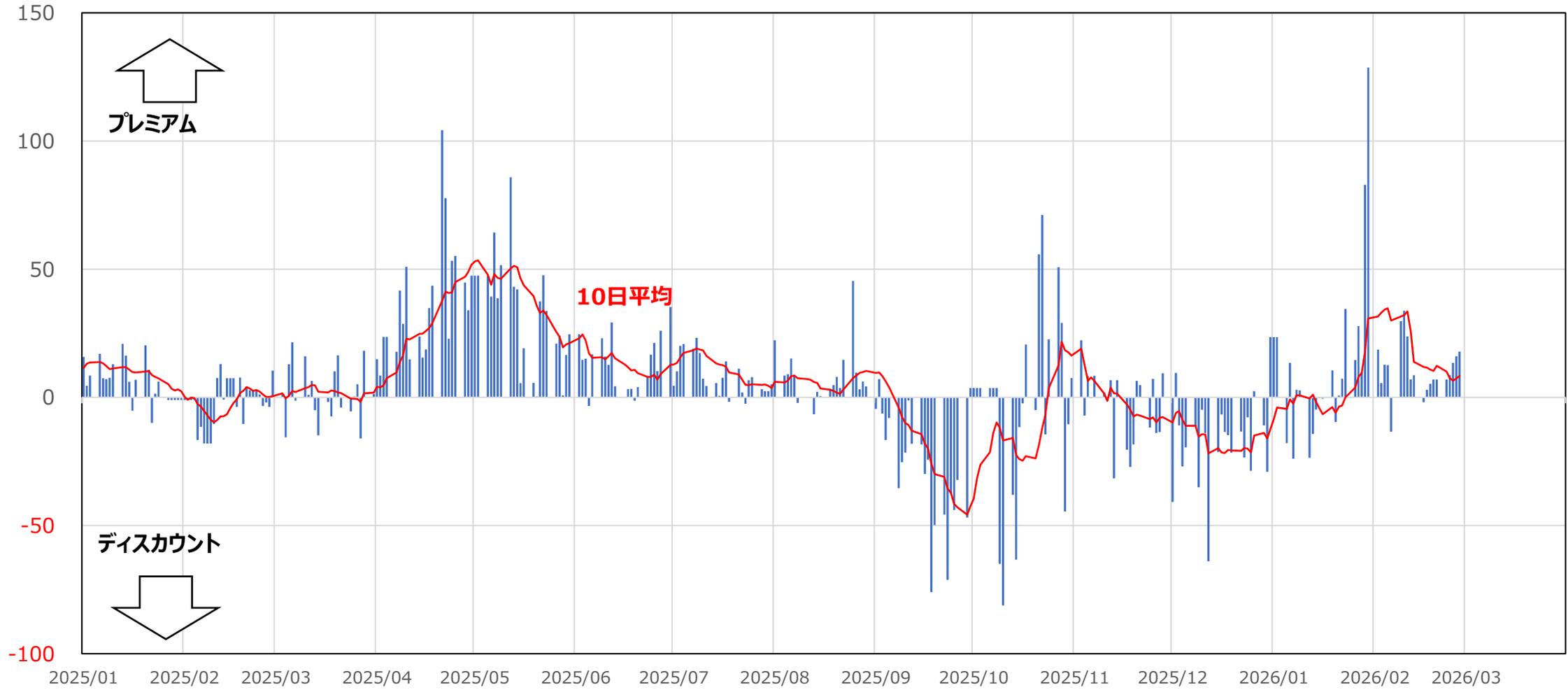


(出所) LSEGよりマーケットエッジ作成

# アジア現物市場の動向

(ドル/オンス)

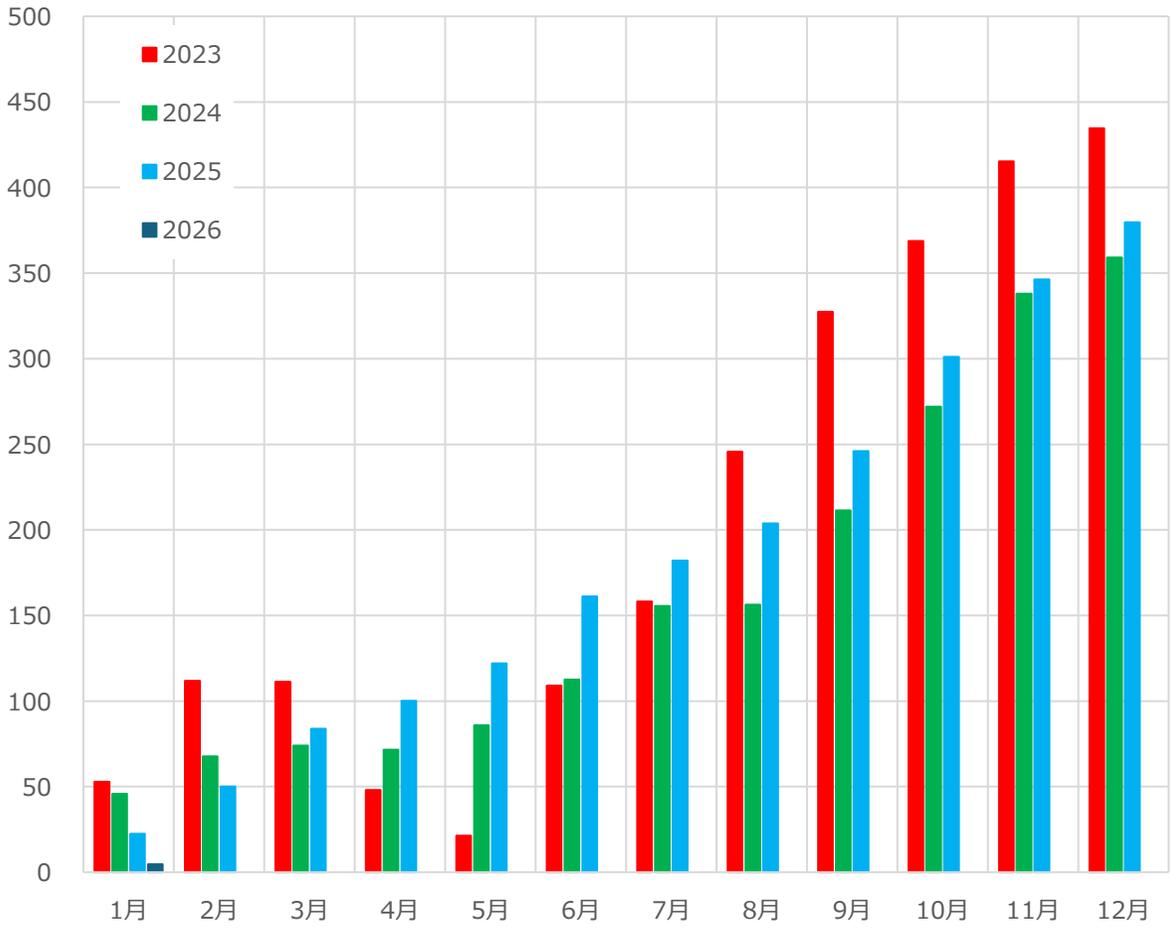
## 中国金価格 国際相場に対するプレミアム/ディスカウント



(出所) World Gold Councilよりマーケットエッジ作成

# 中央銀行の動向①

(トン) 中央銀行の金準備資産の変動 (年初からの累計)



(出所) World Gold Councilよりマーケットエッジ作成

年初からの累計	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026
1月	25.39	-22.48	-9.30	52.80	45.77	22.50	4.65
2月	55.05	1.12	23.03	111.72	67.65	49.99	
3月	98.37	167.43	24.12	111.20	74.04	83.85	
4月	122.05	228.11	64.42	48.11	71.61	100.22	
5月	139.44	301.16	97.96	21.33	85.94	121.96	
6月	142.28	335.23	165.91	108.98	112.46	161.06	
7月	139.37	369.19	207.52	158.18	155.51	182.08	
8月	97.13	399.04	233.47	245.62	156.36	203.74	
9月	110.44	422.16	295.04	327.35	211.32	245.99	
10月	117.68	425.35	331.18	368.79	272.06	301.10	
11月	115.40	399.74	388.87	415.35	338.05	346.35	
12月	135.90	408.62	414.70	434.64	359.06	379.65	

**2026年1月**

ウズベキスタン	+8.70
マレーシア	+3.40
チェコ	+1.70
インドネシア	+1.50
中国	+1.20
キルギス	-1.10
カザフスタン	-1.10
ブルガリア	-1.90
ロシア	-9.30

# 貴金属ETF市場の動向①

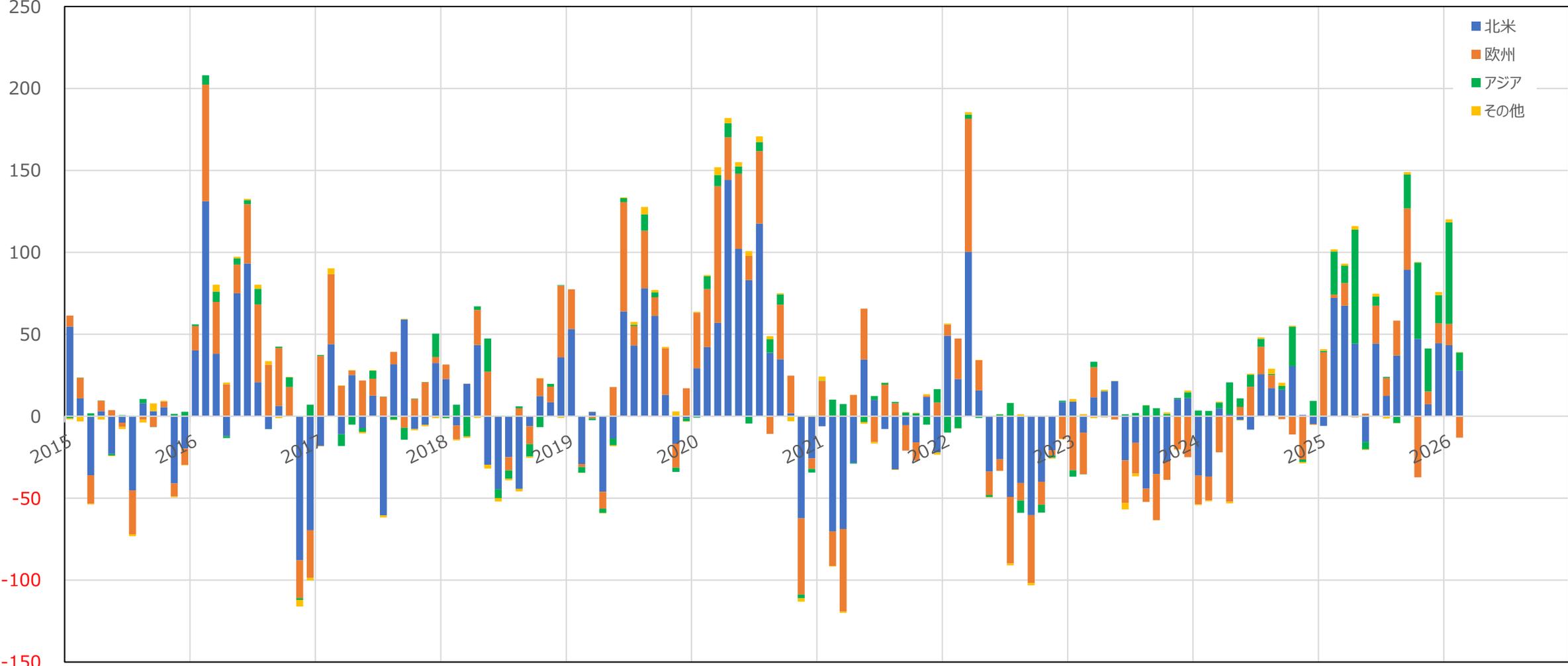


(出所) SPDR GOLD SHARESよりマーケットエッジ作成

# 貴金属ETF市場の動向②

(トン)

## 金ETF投資残高（前月比）

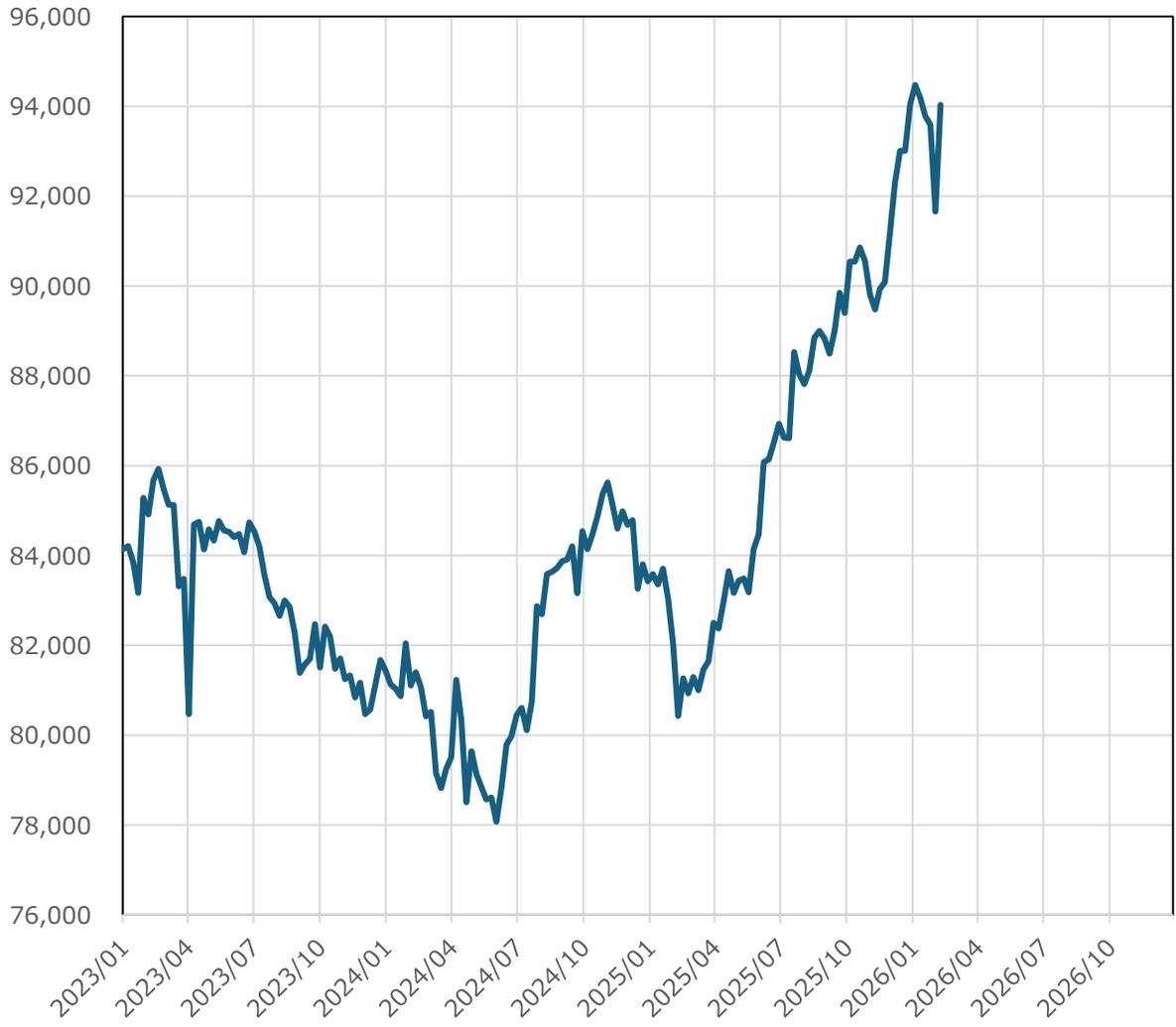


(出所) World Gold Councilよりマーケットエッジ作成

# 貴金属ETF市場の動向③

(万オンス)

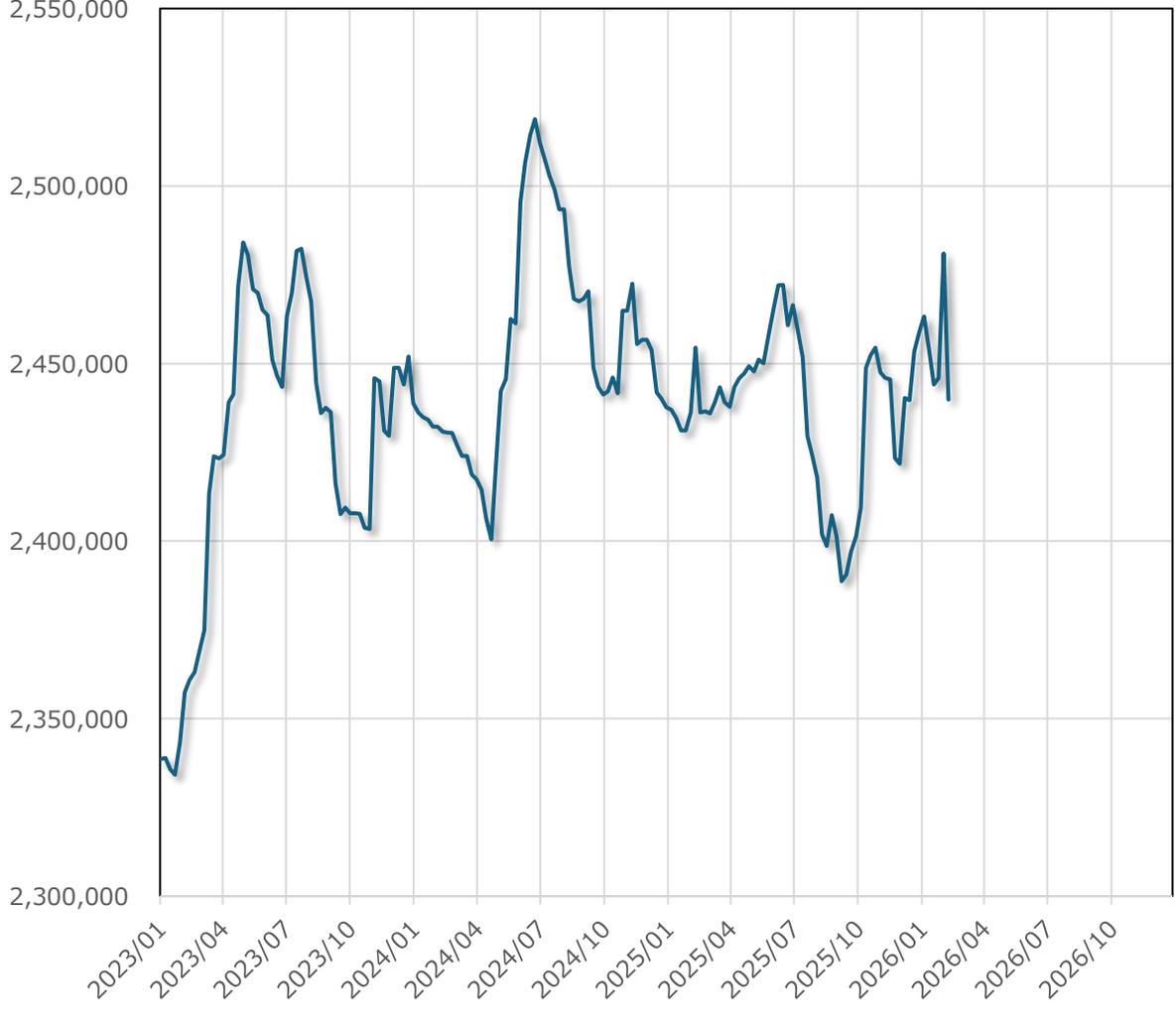
## 銀ETF投資残高



(出所) LSEGよりマーケットエッジ作成

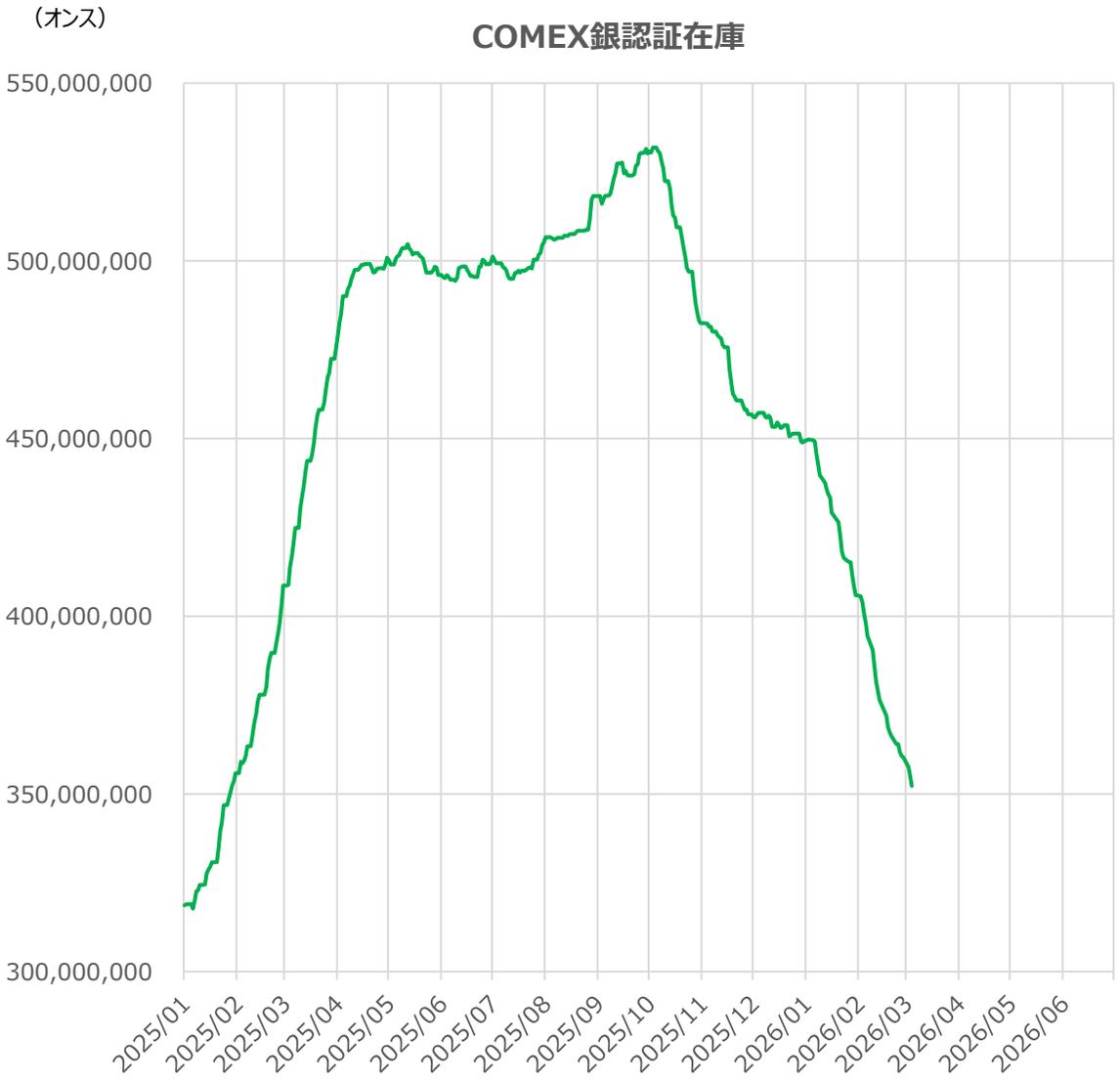
(オンス)

## プラチナETF投資残高

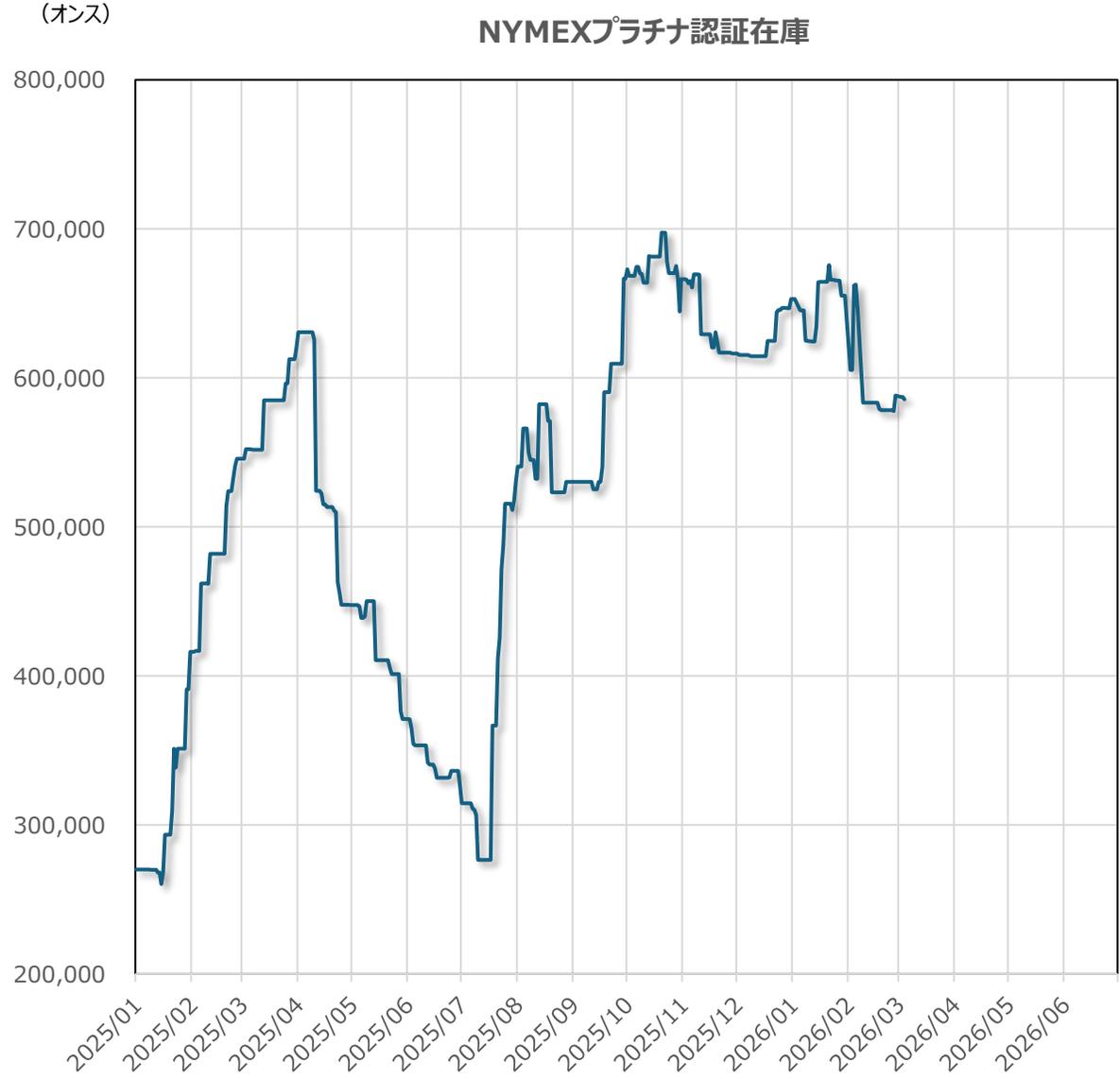


(出所) LSEGよりマーケットエッジ作成

# 貴金属認証在庫の動向

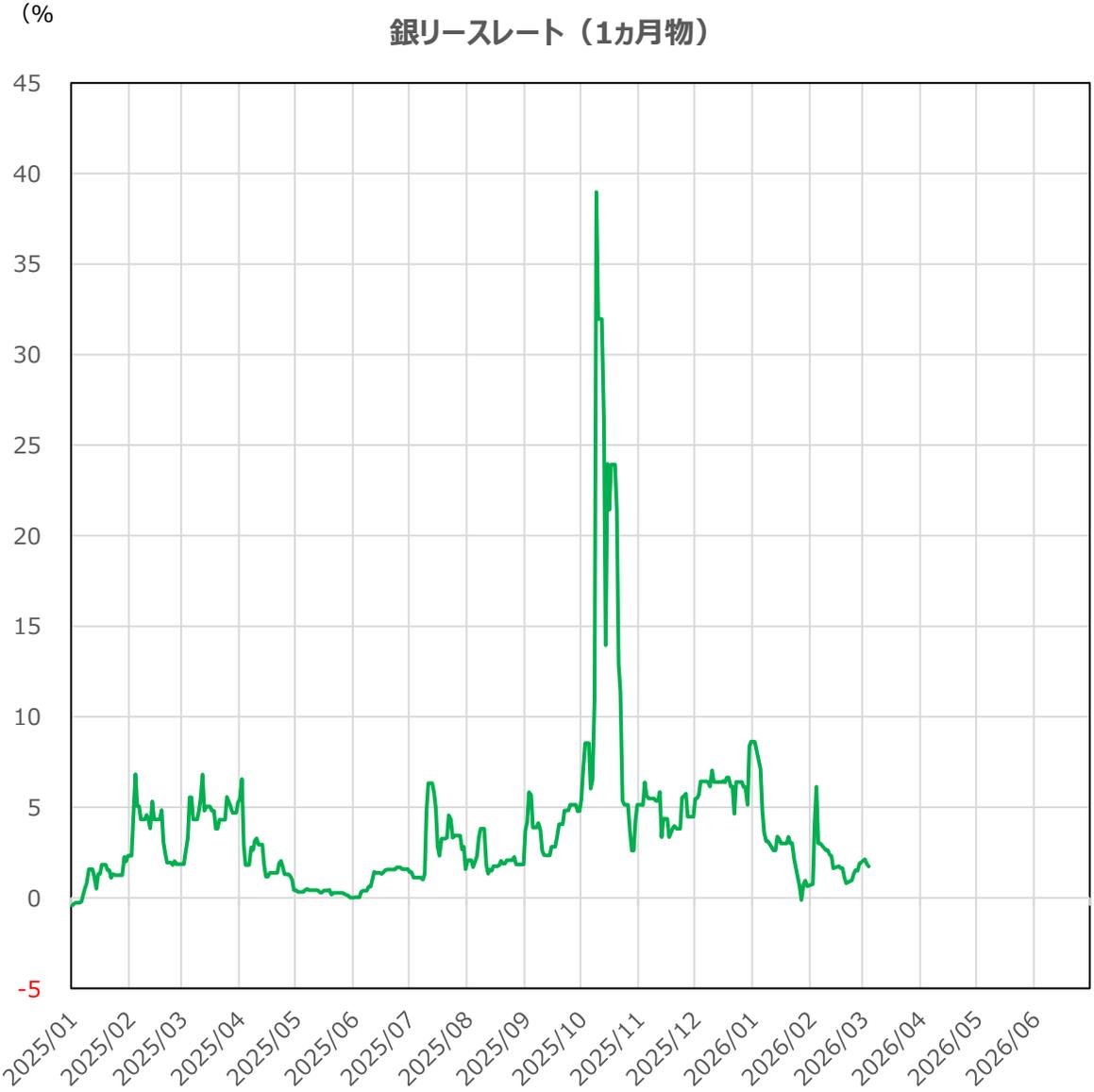


(出所) CME、LSEGよりマーケットエッジ作成

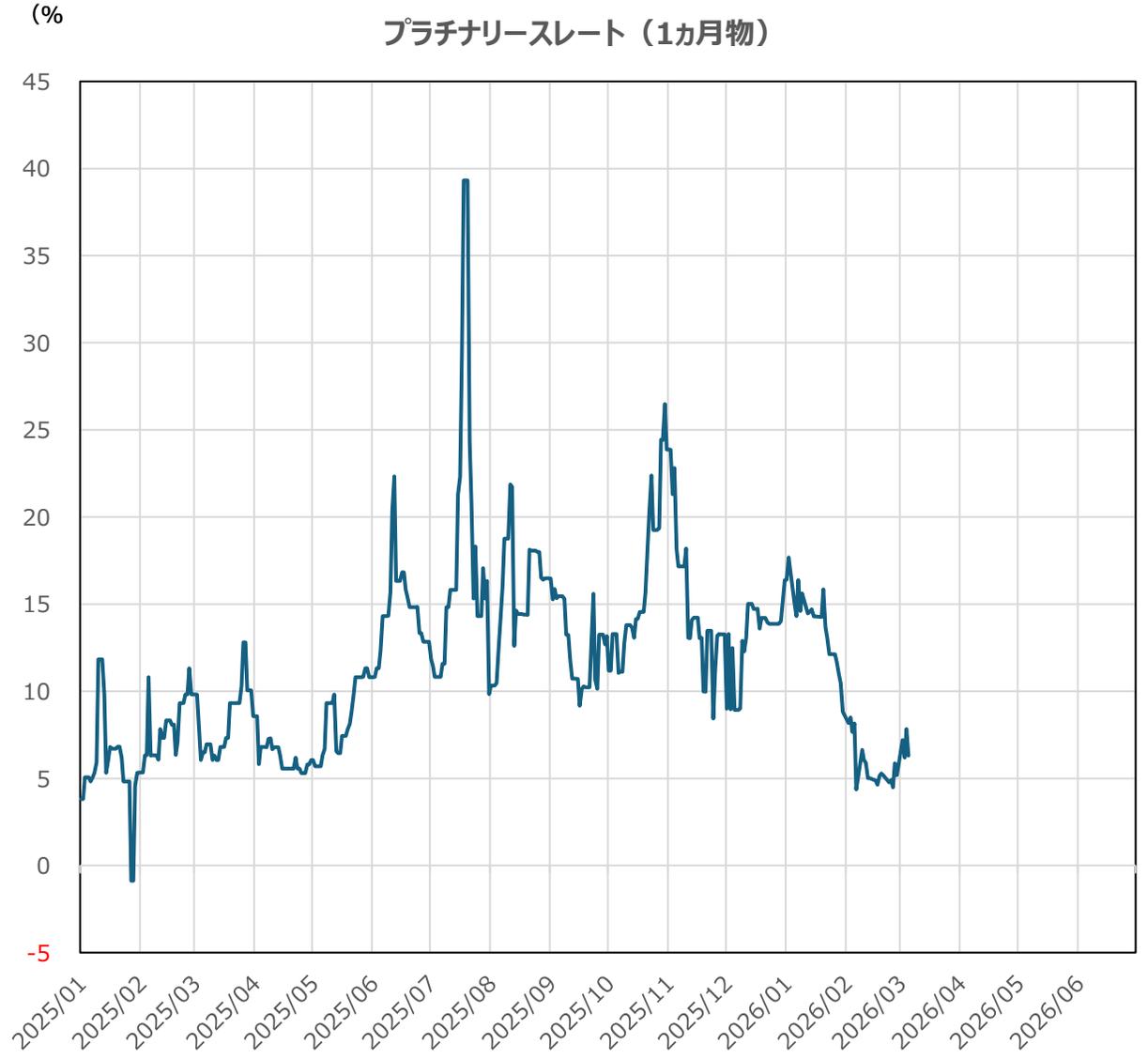


(出所) CME、LSEGよりマーケットエッジ作成

# リースレートの動向

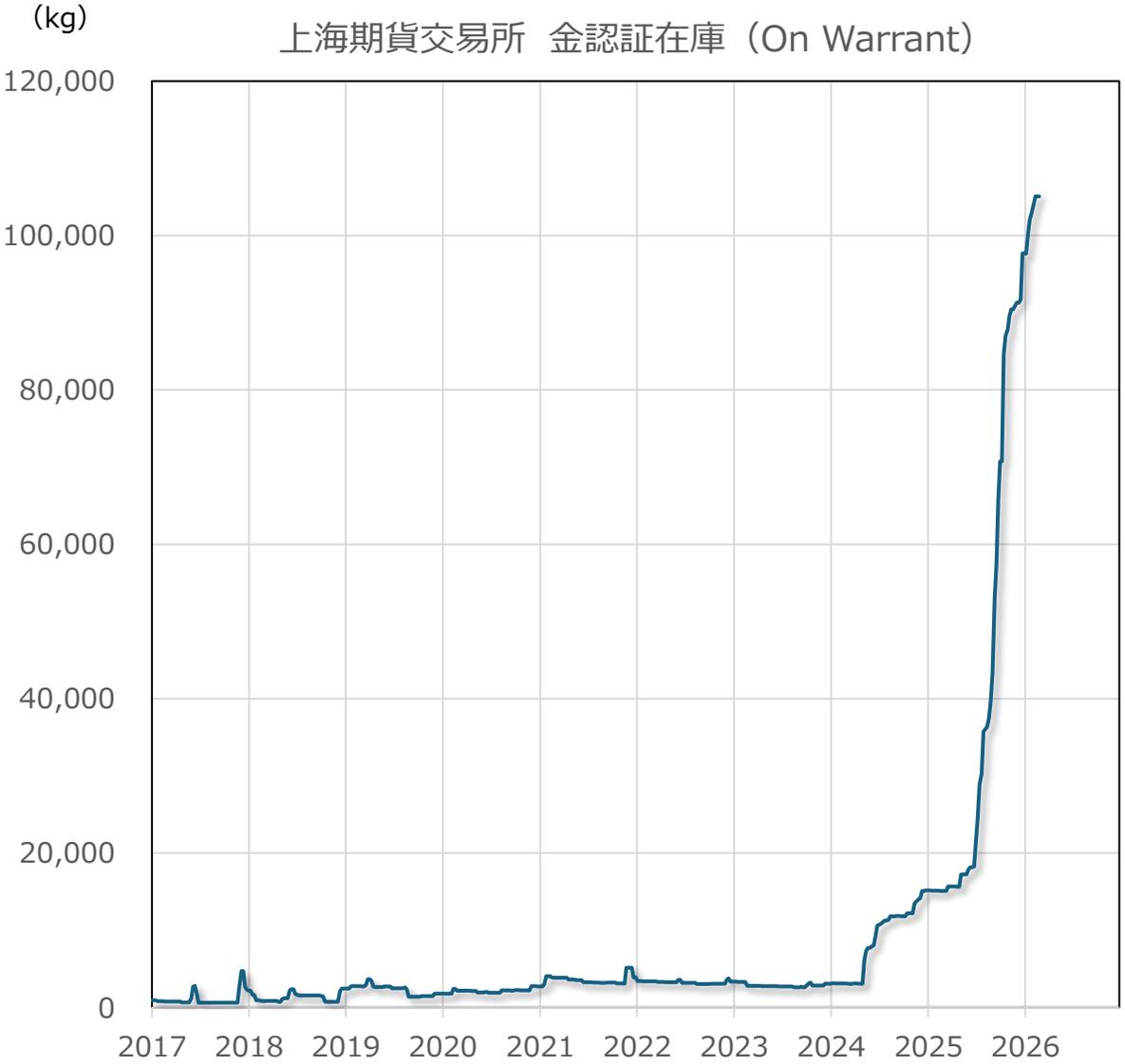


(注) マーケットエッジ計算の理論値 (出所) LSEGよりマーケットエッジ作成



(注) マーケットエッジ計算の理論値 (出所) LSEGよりマーケットエッジ作成

# 中国取引所在庫の動向



(出所) 上海先物取引所よりマーケットエッジ作成



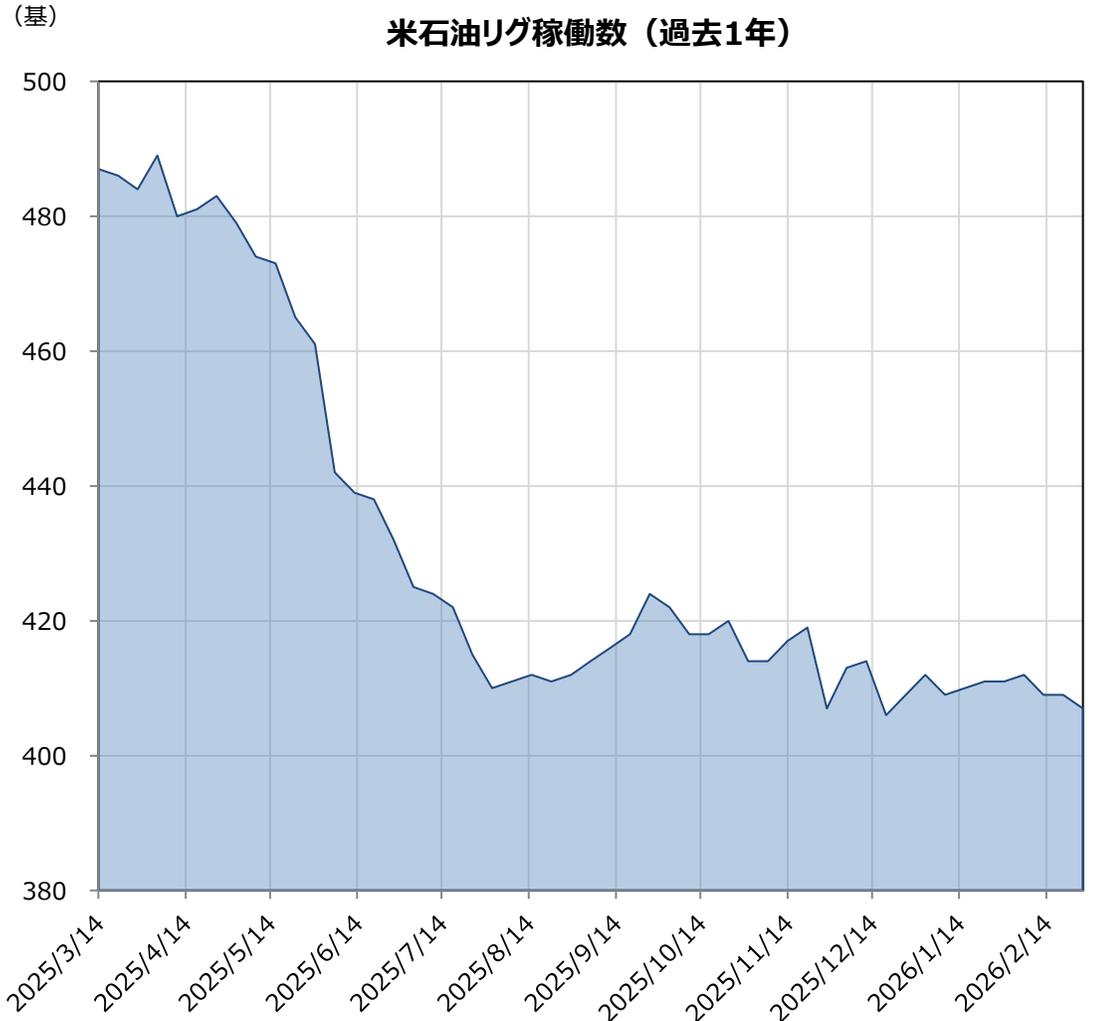
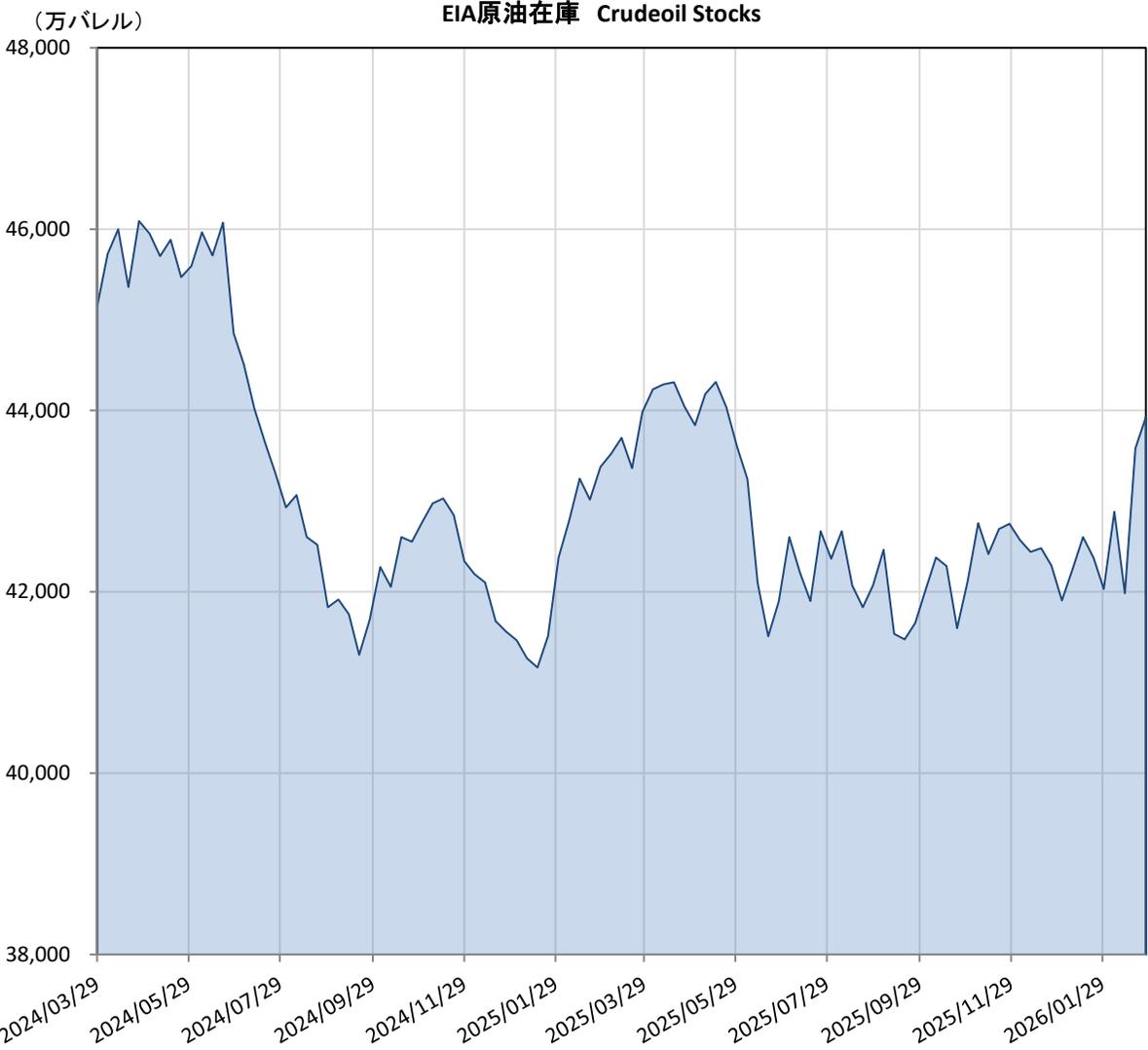
(出所) 上海期貨交易所よりマーケットエッジ作成

# Crudeoil

# NYMEX原油先物相場（日足）



# 米石油在庫統計/米石油リグ稼働数

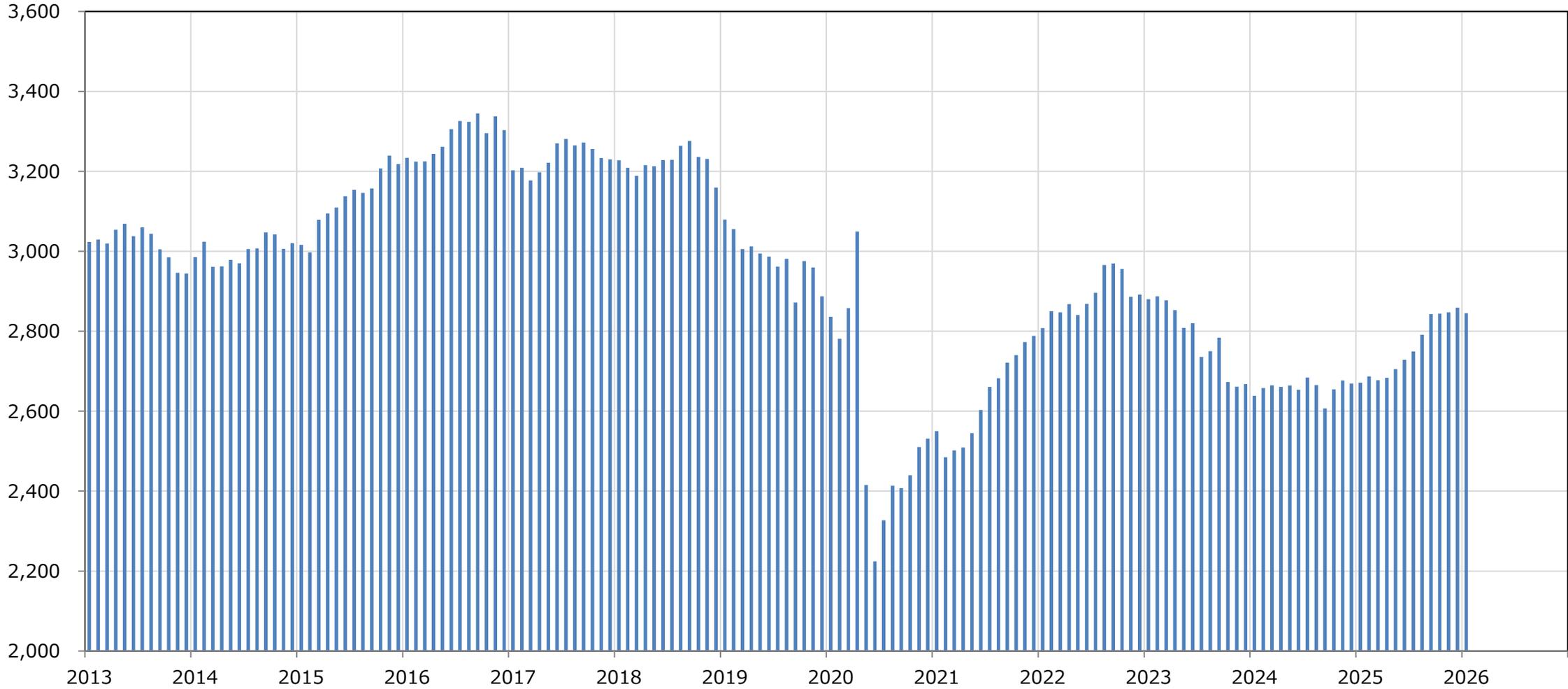


(出所) Baker Hughesよりマーケットエッジ作成

# OPECプラス産油量

(万バレル/日)

## OPEC産油量（現加盟国のみ）

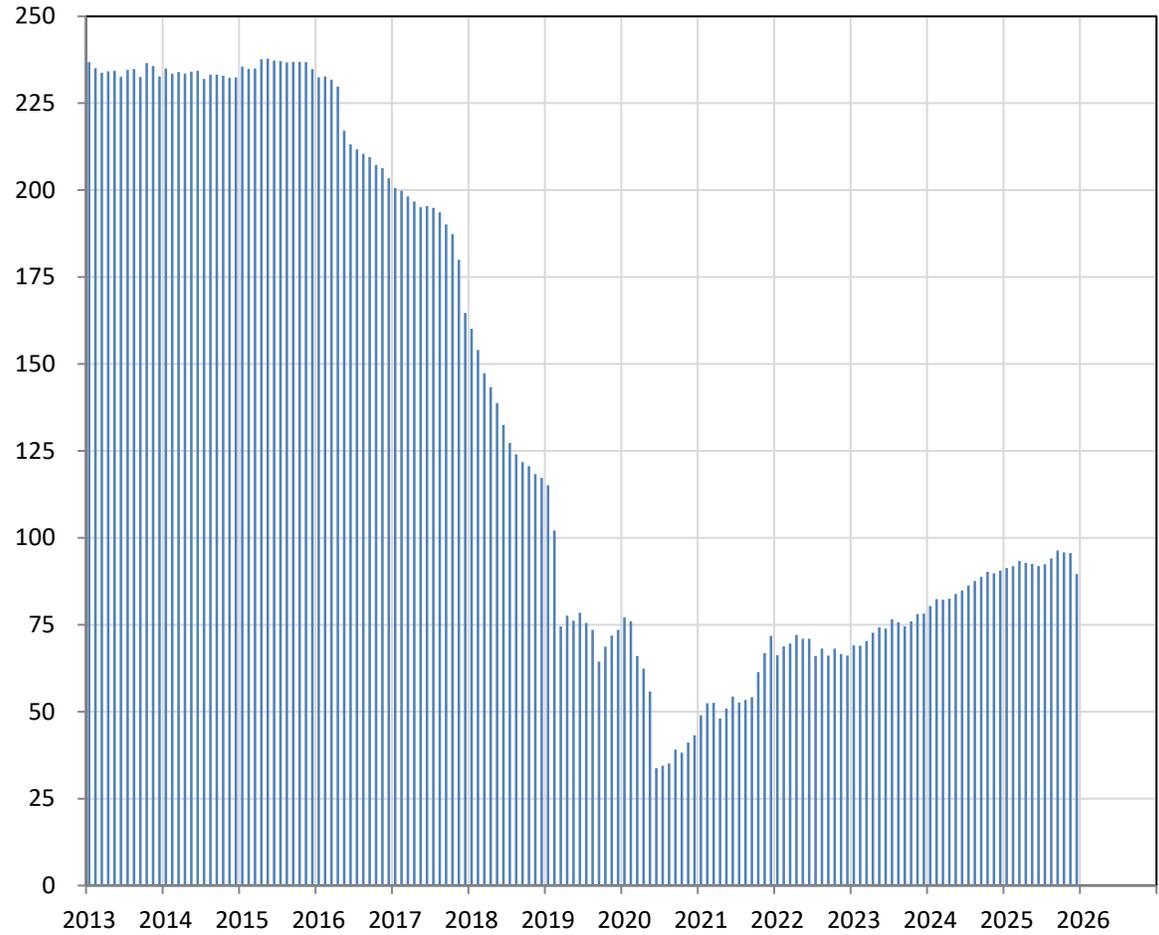


(出所) OPECよりマーケットエッジ作成

# OPECプラス産油量②

(万バレル/日)

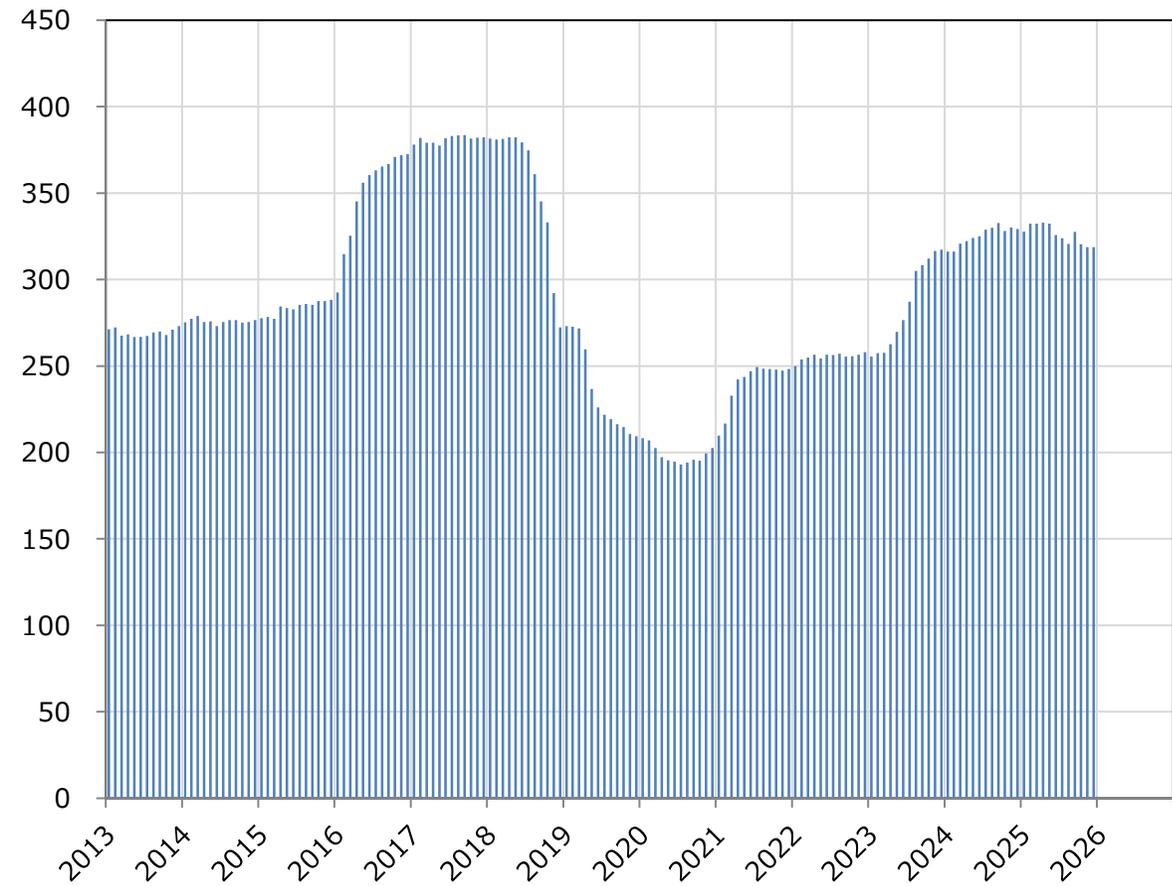
## ベネズエラ産油量



(出所) OPECよりマーケットエッジ作成

(万バレル/日)

## イラン産油量



(出所) OPECよりマーケットエッジ作成

FX

# ドル/円 (日足)



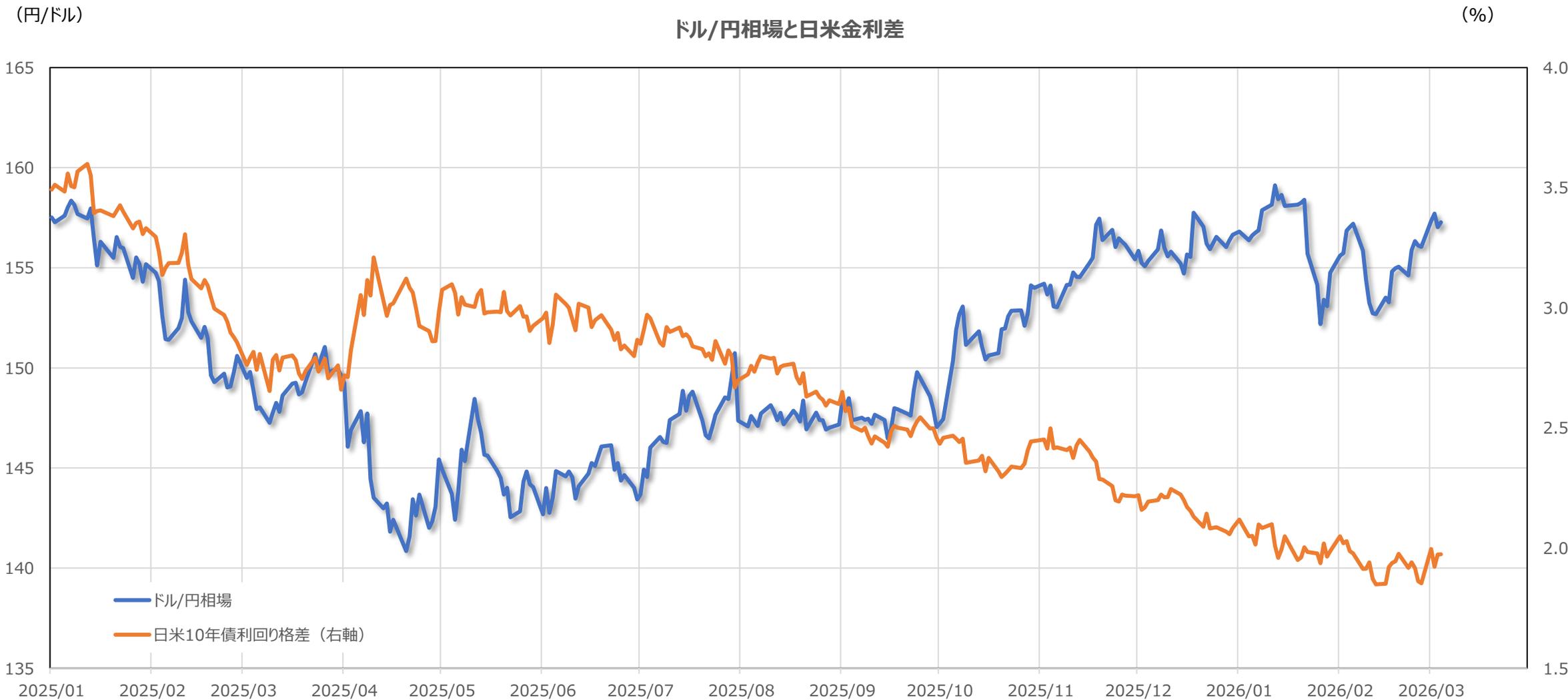
# 米長期金利



# 日本長期金利



# 金利環境からみたドル/円①

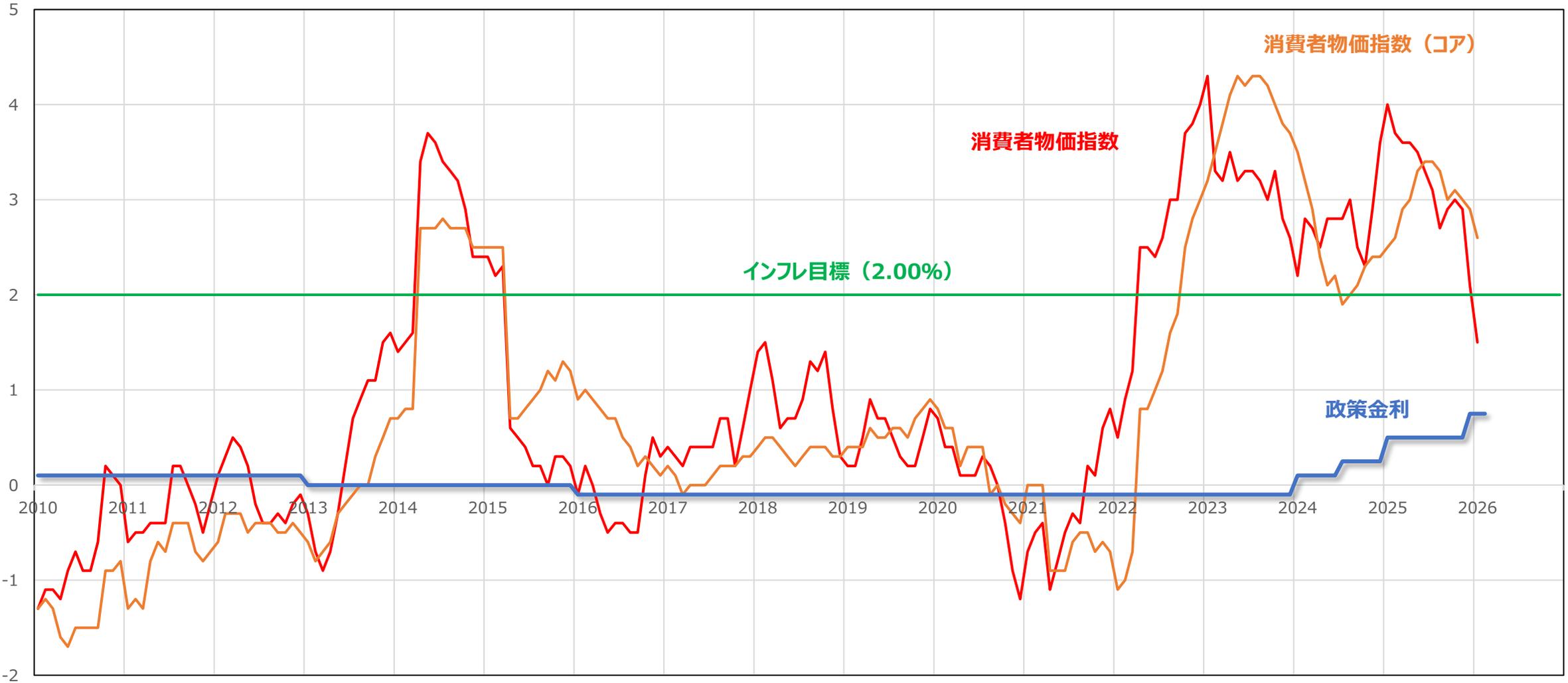


(出所) LSEGよりマーケットエッジ作成

# 金利環境からみたドル/円②

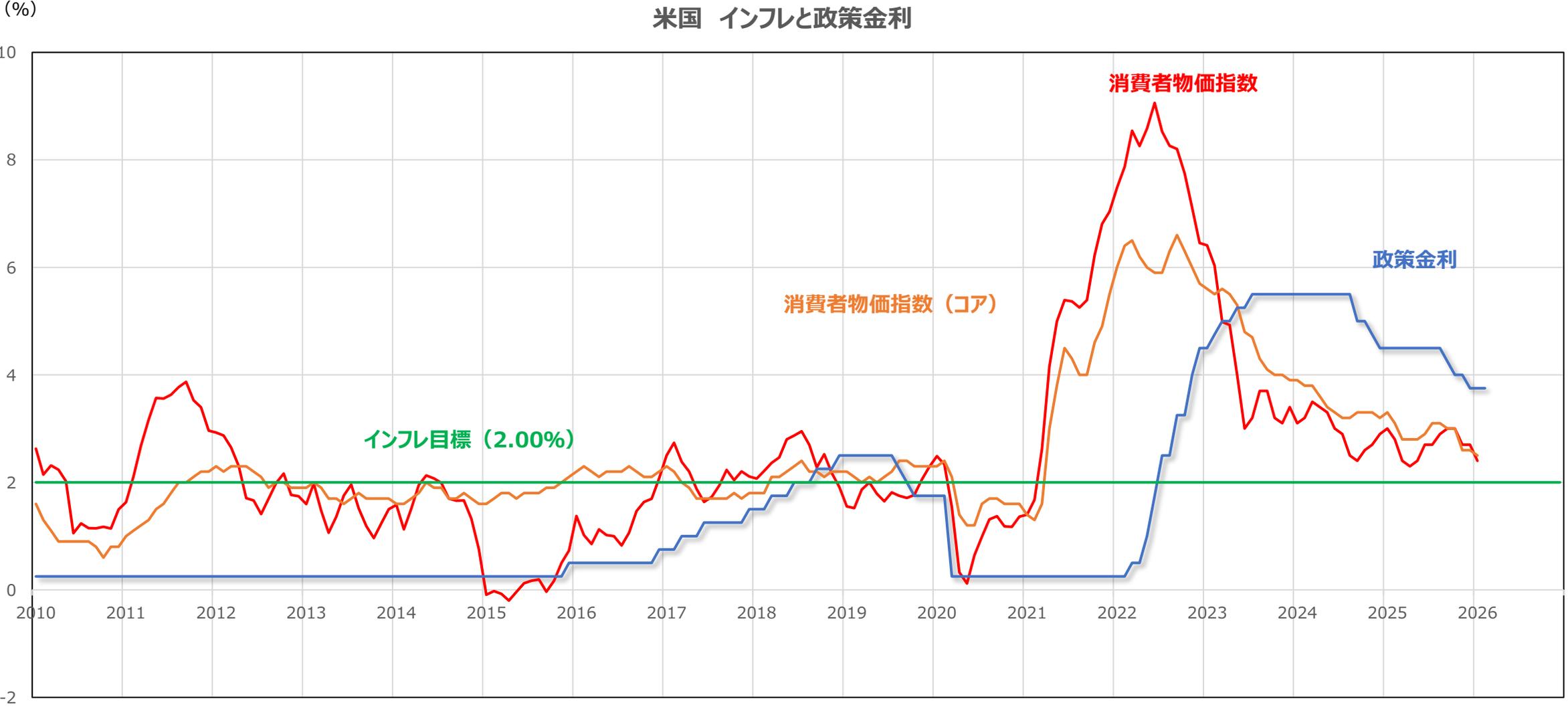
(%)

## 日本 インフレと政策金利



(出所) LSEGよりマーケットエッジ作成

# 金利環境からみたドル/円③



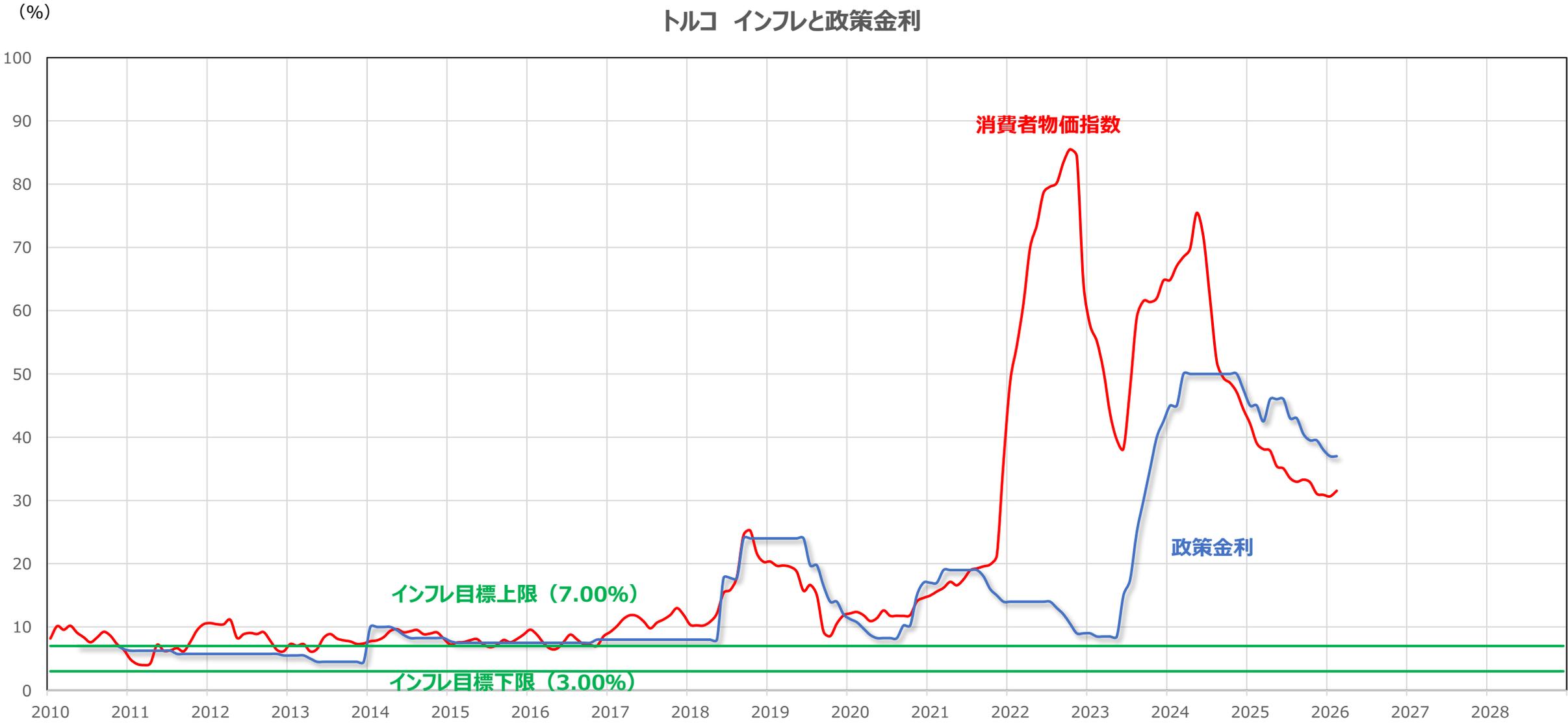
(出所) LSEGよりマーケットエッジ作成

# 南アフリカ政策金利



(出所) LSEGよりマーケットエッジ作成

# トルコ政策金利



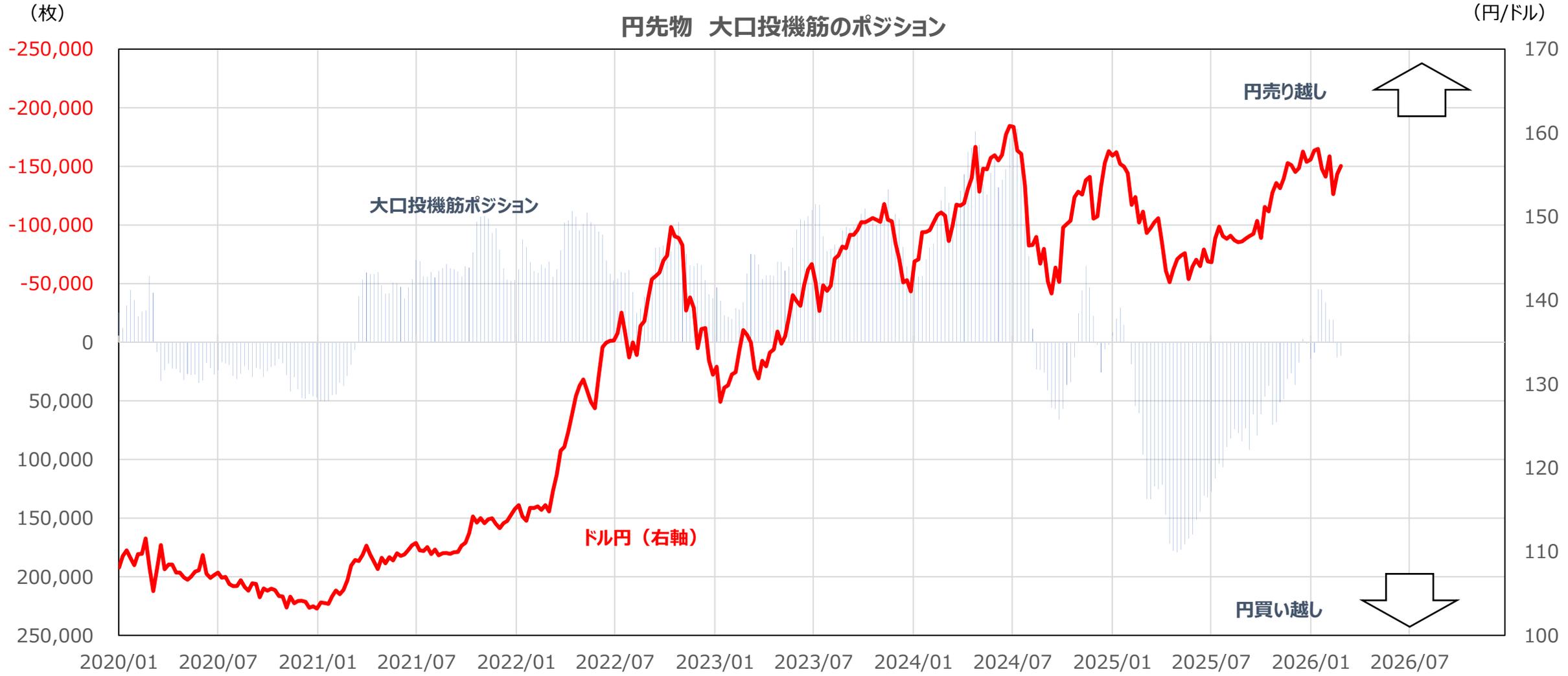
(出所) LSEGよりマーケットエッジ作成

# メキシコ政策金利



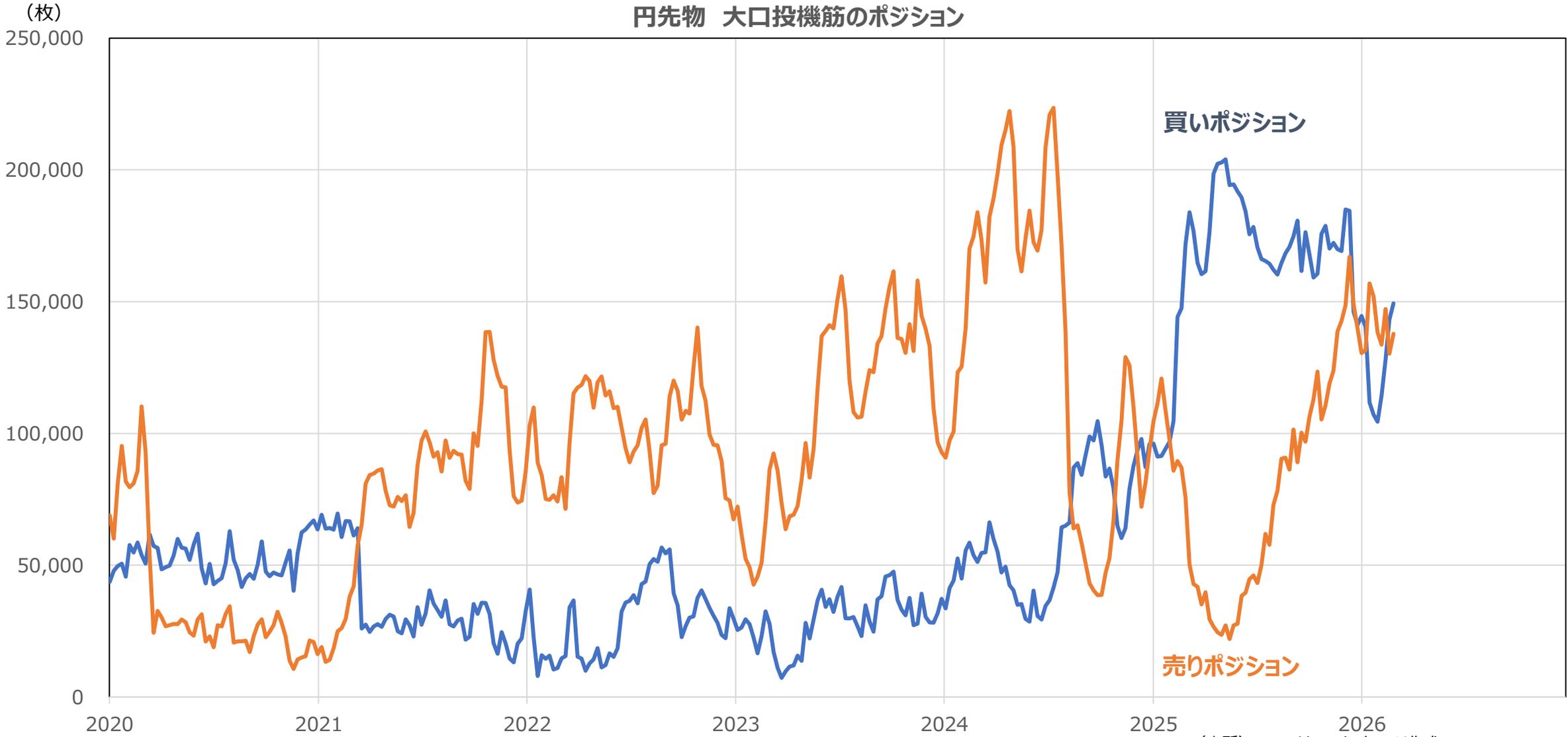
(出所) LSEGよりマーケットエッジ作成

# ドル/円の内部要因①



(出所) CFTC、LSEGよりマーケットエッジ作成

# ドル/円の内部要因②



# Equity

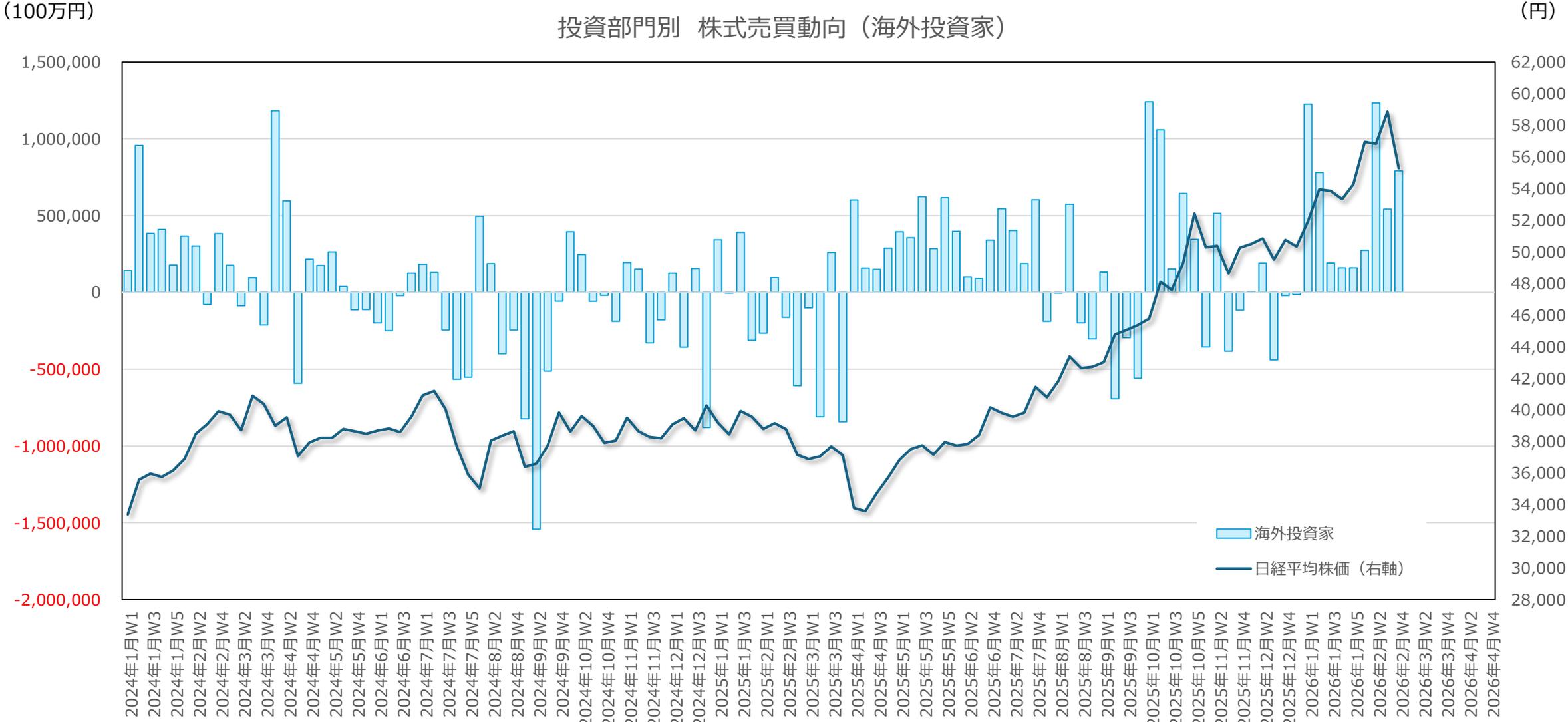
# ダウ工業平均株価 (日足)



# 日経平均株価 (日足)

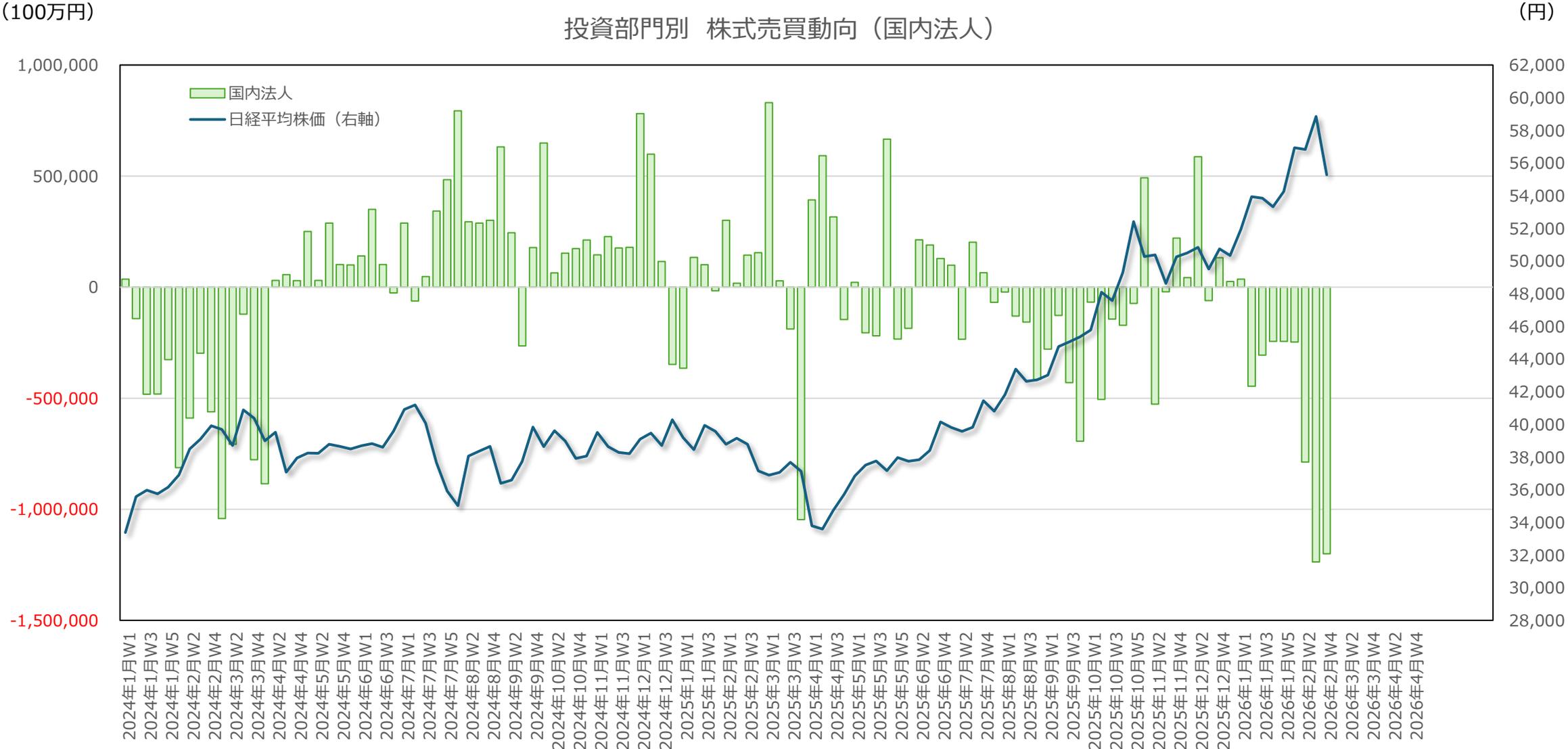


# 日本株の投資主体別売買動向①



(注) 東京・名古屋合計 (出所) JPXよりマーケットエッジ作成

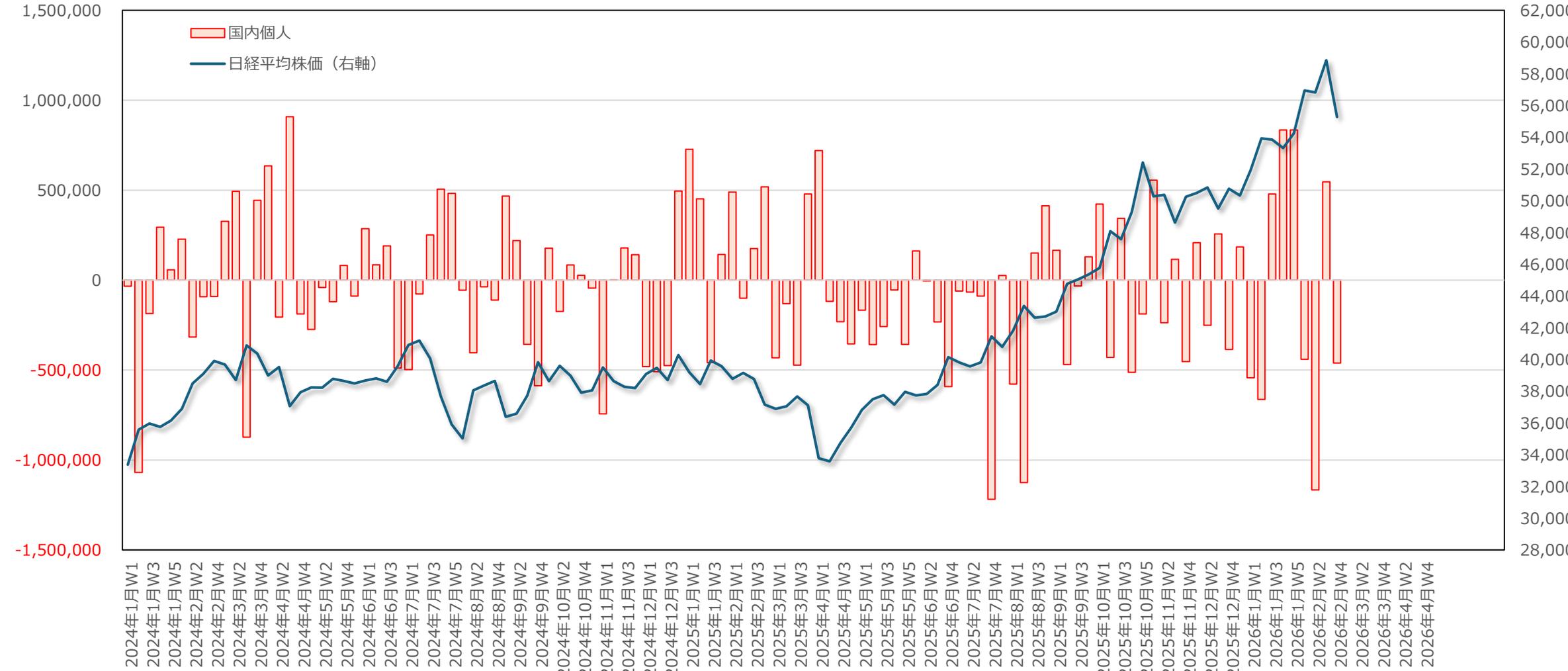
# 日本株の投資主体別売買動向②



(注) 東京・名古屋合計 (出所) JPXよりマーケットエッジ作成

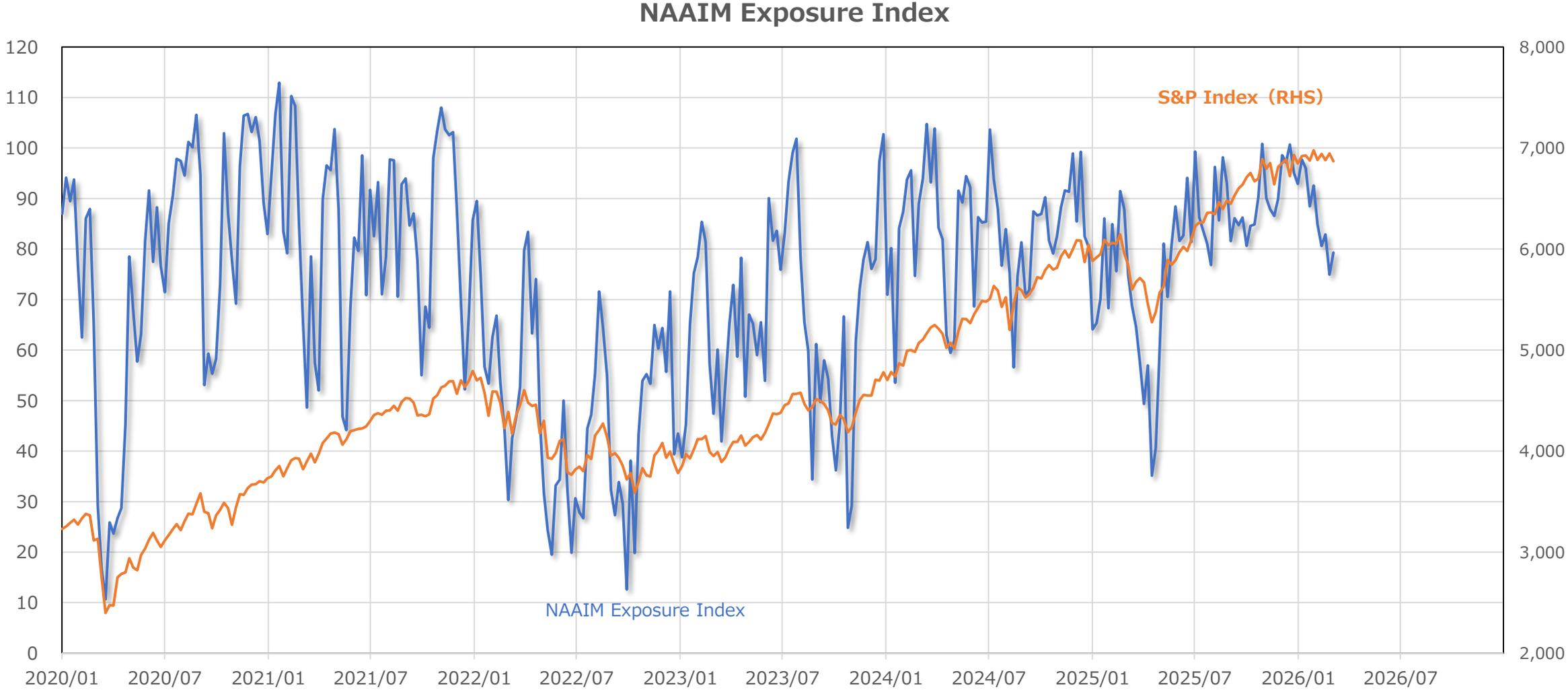
# 日本株の投資主体別売買動向③

(100万円) 投資部門別 株式売買動向 (国内個人) (円)



(注) 東京・名古屋合計 (出所) JPXよりマーケットエッジ作成

# 米機関投資家の売買動向



(出所) NAAIMよりマーケットエッジ作成

## 【作成/注意事項】

マーケットエッジ株式会社

代表取締役 小菅 努 (Tsutomu Kosuge)

Webサイト <https://www.marketedge.co.jp/>

Twitter @kosuge\_tsutomu

本動画/資料で提供する情報については万全を期しておりますが、その情報の正確性を保証するものではありません。本動画/資料の内容は、将来予告なしに変更される可能性があります。また、本動画/資料の内容は過去の情報や実績をもとに作成したものであり、将来の成果を約束するものではありません。

本動画に係る一切の権利はマーケットエッジ株式会社及びその他の権利者に属しており、電子的または機械的な方法その他いかなる方法であるかを問わず、いかなる目的であれ無断で複製、または加工・編集等はできません。